仙台市立病院
内科専門研修
プログラム



（ver. 2026/05/01）

目　　次

1.　理念・使命・特性　1

2.　募集専攻医数　3

3.　専門知識・専門技能とは　4

4.　専門知識・専門技能の習得計画　4

5.　プログラム全体と各施設におけるカンファレンス　8

6.　リサーチマインドの養成計画　8

7.　学術活動に関する研修計画　8

8.　コア・コンピテンシーの研修計画　8

9.　地域医療における施設群の役割　9

10.　地域医療に関する研修計画　１０

11.　内科専攻医研修（モデル）　１０

12.　専攻医の評価時期と方法　１４

13.　専門研修管理委員会の運営計画　１６

14.　プログラムとしての指導者研修　１６

15.　専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）　１７

16.　内科専門研修プログラムの改善方法　１７

17.　専攻医の募集および採用の方法　１８

18.　内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件　１８

仙台市立病院内科専門研修施設群　２０

仙台市立病院内科専門研修プログラム管理委員会　６０

（別表１）仙台市立病院疾患群症例病歴要約到達目標　６１

仙台市立病院内科専門研修プログラム

1. 理念・使命・特性

理念【整備基準 1】

1) 本プログラムは，宮城県仙台医療圏の中心的な急性期病院である仙台市立病院を基幹施設として，宮城県仙台医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て宮城県の医療事情を理解し，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され，基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として宮城県全域を支える内科専門医の育成を行います。
2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は，本プログラム専門研修施設群での 3 年間に，豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で，内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて，標準的かつ全人的な内科医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。

　この内科領域全般の診療能力とは，臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医となっても共通して求められる基礎的な診療能力です。また，知識や技能に偏らず，患者に人間性をもって接すると同時に，医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養も修得することで，様々な環境下においてもリーダーとして全人的な内科医療を実践することができる能力を獲得します。

　内科の専門研修では，幅広い疾患群を順次，経験していくことによって，内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに，疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験を重ねていくことに特徴があります。そして，これらの経験を単に記録するのではなく，病歴要約として科学的根拠や自己省察を含めて記載し，複数の指導医による指導を受けることにより，リサーチマインドを備えつつ，かつ全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします。

使命【整備基準 2】

1) 宮城県仙台医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として，①高い倫理観を持ち，②最新の標準的医療を実践し，③安全な医療を心がけ，④プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し，臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。
2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も，内科専門医は常に自己研鑽を続け，最新の情報を学び，新しい技術を修得し，標準的な医療を安全に提供し，疾病の予防・早期発見・早期治療に努め，自らの診療能力をより高めることが求められます。これを通じ，内科医療全体の水準も高め，地域住民，日本国民に対し生涯にわたり最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。
3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。
4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究，基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

特性

1) 本プログラムは，宮城県仙台医療圏の中心的な急性期病院である仙台市立病院を基幹施設として，宮城県仙台医療圏及び近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設において内科専門研修を行い，超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し，必要に応じた可塑性のある，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は基幹施設 1 年間以上及び連携施設・特別連携施設 1 年間以上の組み合わせで，原則として合計 3 年間です。
2) 本プログラムでは，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって，目標への到達とします。
3) 基幹施設である仙台市立病院は，宮城県仙台医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核です。一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所との病診連携（在宅訪問診療施設などを含む）も経験できます。
4) 基幹施設である仙台市立病院での 2 年間（専攻医 2 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 45 疾患群，80 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます。そして，専攻医 2 年修了時点で，指導医による形成的な指導を通じて，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）による評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（P.61 別表 1「仙台市立病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。
5) 仙台市立病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために，専門研修期間中のうち 1 年間以上，立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって，内科専門医に求められる役割を実践します。
6) 専門研修期間において，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 56 疾患群，120 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます。可能な限り，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群，200 症例以上の経験を目標とします（別表 1「仙台市立病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。

専門研修後の成果【整備基準 3】

内科専門医の使命として，「高い倫理観の保有」「最新の標準的医療の実践」「安全な医療の提供」「プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療の展開」があります。それぞれのキャリア形成やライフステージ，あるいは医療環境によって，求められる内科専門医像は単一ではありませんが，その環境に応じた役割を果たし，地域住民・国民の信頼を獲得することができる内科専門医を多く輩出することが，本プログラムでの果たすべき成果です。

●地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）

地域において常に患者と接し，内科慢性疾患に対して，生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を実践します。

●内科系救急医療の専門医

内科系救急疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な，地域での内科系救急医療を実践します。

●病院での総合内科（Generality）の専門医

病院での内科系の全領域に対し広範な知識・洞察力を有し，総合内科医療を実践します。

●総合内科的視点を持った Subspecialist

病院での総合内科医療の視点を持ちつつ，併せて内科系 Subspecialty を受け持つことで知識の習得，研鑽を重ね，Subspecialist として診療を実践します。

本プログラムでの研修修了による成果として，内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを併せ持ち，それぞれのキャリア形成やライフステージに応じて，いずれかの道を探究することも，または両者を同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして，どの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得している人材を育成します。また，希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療，大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも，本プログラムでの研修が果たすべき成果です。

2. 募集専攻医数【整備基準 27】

下記 1)～8)により，仙台市立病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 7 名とします。

1) 仙台市立病院内科専門研修プログラムに在籍する専攻医は，現在 8 名で，1 学年あたり約 3 名の実績があります。
2) 仙台市管轄の公立病院として雇用人員数等に一定の制限があるため，募集定員の大幅増は現実的に困難です。
3) 剖検体数は 2023 年度 6 体，2024 年度 8 体，2025 年度 8 体です。専門研修に必要な剖検を実施しています。

表．仙台市立病院診療科別診療実績

2025 年度実績	入院患者実数（人/年）	外来延患者数（延人数/年）
内科	19,340	26,119
消化器内科	13,282	19,204
循環器内科	13,175	15,014
脳神経内科	9,093	5,549
糖尿病・代謝内科	1,105	13,990

※腎臓・呼吸器・血液・感染症・膠原病領域疾患は，内科に含めて計上

4) 当院には内分泌科はありませんが，伝統的に外科において内分泌診療を行っており，外科と連携することで内分泌疾患の症例数を経験することができます。また，神経内科については当院の他，連携施設において必要な症例数を経験可能です。膠原病（リウマチ）領域の入院患者は少なめですが，外来患者診療を含め，1 学年 7 名に対し十分な症例を経験可能です。
5) 13 領域のうち，11 領域において専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています。また，残りの 2 領域については，連携施設及び特別連携施設に専門医が 1 名以上在籍しています。（P.20「仙台市立病院内科専門研修施設群」参照）。
6) 1 学年 7 名までの専攻医であれば，専攻医 2 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 45 疾患群，80 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能です。

7) 連携施設・特別連携施設には，高次機能・専門病院 1 施設，地域基幹病院 17 施設および地域医療密着型病院 3 施設，計 21 施設あり，専攻医のさまざまな希望・将来像に対応可能です。
8) 専攻医 3 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた少なくとも 56 疾患群，120 症例以上の診療経験は達成可能です。

3. 専門知識・専門技能とは

1) 専門知識【整備基準 4】［「内科研修カリキュラム項目表」参照］
専門知識の範囲（分野）は，「総合内科」，「消化器」，「循環器」，「内分泌」，「代謝」，「腎臓」，「呼吸器」，「血液」，「神経」，「アレルギー」，「膠原病および類縁疾患」，「感染症」，ならびに「救急」で構成されます。
「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている，これらの分野における「解剖と機能」，「病態生理」，「身体診察」，「専門的検査」，「治療」，「疾患」などを目標（到達レベル）とします。
2) 専門技能【整備基準 5】［「技術・技能評価手帳」参照］
内科領域の「技能」とは，幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた，医療面接，身体診察，検査結果の解釈，ならびに科学的根拠に基づいた幅広い診断・治療方針決定を指します。さらに，特定の手技の習得や経験数等では図ることが出来ない，全人的に患者・家族と関わる能力及び他の Subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力が加わります。

4. 専門知識・専門技能の習得計画

1) 到達目標【整備基準 8～10】（P.61 別表 1 「仙台市立病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）
主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします。内科領域研修を幅広く行うため，内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります。そこで，専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスを以下のように設定します。

●専門研修（専攻医）1 年:
- 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，少なくとも 20 疾患群，40 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録する。また，専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録する。
（以下，全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われる）
- 技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty 上級医とともに行うことができる。
- 態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行うことで態度の評価を行い，担当指導医がフィードバックを行う。

●専門研修（専攻医）2　年:
- 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，通算で少なくとも 45 疾患

群，80 症例以上の経験をし，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録する。また，専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）への登録を終了する。

・ 技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty 上級医の監督下で行うことができる。

・ 態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行うことで態度の評価を行い，担当指導医がフィードバックを行う。さらに，専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックする。

●専門研修（専攻医）３年:

・ 症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とする。ただし，修了要件としては，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上，計 120 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができる）を経験することを要する。これらの研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録する。また，既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）による査読者の評価を受け，形成的により良いものへ改訂する。さらに，専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認する。

・ 技能：内科領域全般について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を自立して行うことができる。

・ 態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行うことで態度の評価を行う。専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックする。また，内科専門医としてふさわしい態度，プロフェッショナリズム，自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し，さらなる改善を図る。

専門研修修了には，すべての病歴要約 29 症例の受理と，少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 120 症例以上の経験を必要とします。日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）における研修ログへの登録と指導医の評価・承認とにより目標を達成します。

本プログラムでは，「研修カリキュラム項目表」の知識，技術・技能修得は必要不可欠なものであり，修得するまでの最短期間は３年間（基幹施設 1 年間以上＋連携・特別連携施設 1 年間以上の合計年数）としますが，修得が不十分な場合等，修得できるまで研修期間を１年単位で延長します。一方でカリキュラムの知識，技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修を開始させます。

2) 臨床現場での学習【整備基準 13】

内科領域の専門知識は，広範な分野を横断的に研修し，各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し，それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します。この過程によって専門医に必要な知識，技術・技能を修得します。代表的な疾患については病歴要約や症例報告として記載します。また，自らが経験することのできなかった症例については，カンファレンスや自己学習によって知識を補足します。これらを

通じて，遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。

① 内科専攻医は，担当指導医もしくは Subspecialty の上級医の指導の下，主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて，内科専門医を目指して常に研鑽します。主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。

② 定期的（毎週 1 回）に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて，担当症例の病態や診断過程の理解を深め，多面的な見方や最新の情報を得ます。また，プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます。

③ 総合内科外来（初診を含む）と Subspecialty 診療科外来（初診を含む）を少なくても週 1 回，1 年以上担当医として経験を積みます。

④ 救命救急センターにおける日当直業務を通じて，内科領域の救急診療の経験を積みます。また，当直医として病棟急変などの経験を積みます。

⑤ 必要に応じて，Subspecialty 診療科検査を担当します。

＜内科研修プログラムの週間スケジュール：循環器内科の例＞

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th></tr>
<tr><td rowspan="2">午前</td><td colspan="5">新入院・救急入院症例カンファランス</td></tr>
<tr><td></td><td>抄読会</td><td></td><td></td><td>心臓血管外科・循環器内科合同カンファランス</td></tr>
<tr><td rowspan="2">午後</td><td></td><td></td><td></td><td>入院症例カンファランス</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>心エコー専門医向け講習会（月 1 回）</td><td></td></tr>
<tr><td>夕方</td><td>血管カンファランス（月 1 回）</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

3) 臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

「内科領域の救急対応」，「最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解」，「標準的な医療安全や感染対策に関する事項」，「医療倫理，医療安全，感染防御，臨床研究や利益相反に関する事項」，「専攻医の指導・評価方法に関する事項」などについて，以下の方法で研鑽します。

① 定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科での抄読会

② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会（基幹施設年間実施予定：医倫年 1 回 医安 10 回 感染 2～4 回）

※内科専攻医は年に 2 回以上受講します。

③ CPC（基幹施設 年 10 回程度）

④ 研修施設群合同カンファレンス（年 1 回開催予定）

⑤ 地域参加型のカンファレンス（年 6 回開催予定）

⑥　JMECC 受講（年１回程度の自院開催の他，近隣施設開催での受講補助を行うことにより受講の機会を確保します）

※内科専攻医は必ず専門研修１年もしくは２年までに１回受講します。

⑦　内科系学術集会（下記「７．学術活動に関する研修計画」参照）

⑧　各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会への参加

4）自己学習【整備基準 15】

「研修カリキュラム項目表」において，各到達レベルを下記のように分類しています。

●知識に関する到達レベル

A：病態の理解と合わせて十分に深く知っている

B：概念を理解し，意味を説明できる

●技術・技能に関する到達レベル

A：複数回の経験を経て，安全に実施できる，または判定できる

B：経験は少数例だが，指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる，または判定できる

C：経験はないが，自己学習で内容と判断根拠を理解できる

●症例に関する到達レベル

A：主担当医として自ら経験した

B：間接的に経験した（実症例をチームとして経験，症例検討会を通して経験等）

C：レクチャー，セミナー，学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーション等で学習した

なお，自身の経験がなくても自己学習すべき項目については，以下の方法等で学習します。

①　内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信

②　日本内科学会雑誌にある MCQ

③　日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題

5）研修実績および評価を記録し，蓄積するシステム【整備基準 41】

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて，以下を web ベースで日時を含めて記録します。

・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に，少なくとも通算で 56 疾患群 120 症例以上の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し，合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。

・専攻医による逆評価を入力して記録します。

・　全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し，専門研修施設群とは別の日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）によるピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います。

・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します。

・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC，地域連携カンファレンス，医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。

5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13,14】

本プログラムにおける施設ごとの概要は別添のとおりです（P.20「仙台市立病院内科専門研修施設群」参照）。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である仙台市立病院が把握し，定期的に E-mail などで専攻医に周知し，出席を促します。

6. リサーチマインドの養成計画【整備基準 6,12,30】

内科専攻医には，単に症例を経験することに留まらず，これらを自ら深めていく姿勢が求められます。また，本プログラム修了後も，生涯にわたり自己研鑽を積んでいくことが不可欠です。

本プログラムにおいては，基幹施設，連携施設，特別連携施設のいずれにおいても，下記によりリサーチマインドの養成・内科専攻医としての教育活動を行います。

＜基本的リサーチマインド及び学問的姿勢の涵養＞

① 患者から学ぶという姿勢を基本とする
② 科学的な根拠に基づいた診断，治療を行う（EBM;evidence based medicine）
③ 最新の知識，技能を常にアップデートする（生涯学習）
④ 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う
⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く

＜内科専攻医としての教育活動＞

① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う
② 後輩専攻医の指導を行う
③ メディカルスタッフを尊重し，指導を行う

7. 学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

本プログラムでは，基幹施設，連携病院，特別連携病院のいずれにおいても，下記を通じて科学的根拠に基づく思考を全人的に活かせるよう，研修を行います。

① 研修期間を通じ，筆頭者として学会発表または論文発表を２件以上行う（必須）
② 内科系の学術集会や企画に年２回以上参加する（必須）
※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会，年次講演会，CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会等
③ 経験症例についての文献検索を行い，症例報告を行う
④ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行う
⑤ 内科学に通じる基礎研究を行う

なお，専攻医が，社会人大学院などを希望する場合でも，本プログラムの修了認定基準を満たせるよう，バランスを持った研修を計画します。

8. コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】

「コンピテンシー」とは，知識，技能，態度が複合された能力であり，その中で共通・中核となるコア・コンピテンシーは倫理観・社会性です。

本プログラムでは基幹施設，連携施設，特別連携施設のいずれにおいても，指導医，

Subspecialty 上級医とともに下記①～⑩について積極的に研鑽する機会を与え，内科専門医として高い倫理観と社会性の獲得を図ります。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である仙台市立病院が把握し，定期的に E-mail などで専攻医に周知し，出席を促します。

① 患者とのコミュニケーション能力
② 患者中心の医療の実践
③ 患者から学ぶ姿勢
④ 自己省察の姿勢
⑤ 医の倫理への配慮
⑥ 医療安全への配慮
⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
⑧ 地域医療保健活動への参画
⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
⑩ 後輩医師への指導

※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通じ，先輩からだけではなく後輩，医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます。

9. 地域医療における施設群の役割【整備基準 11,28】

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修が必須となります。本プログラムにおける施設群は宮城県仙台医療圏及び近隣医療圏の医療機関から構成されています。

仙台市立病院は，宮城県仙台医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核です。一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけられます。

連携施設・特別連携施設には，内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，地域医療や全人的医療を組み合わせて，急性期医療，慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に，高次機能・専門病院，地域基幹病院および地域医療密着型病院で構成しています。

高次機能・専門病院では，高度な急性期医療，より専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療経験を研修し，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけられます。また，地域基幹施設では，仙台市立病院と異なる環境で，地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修するとともに，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。地域医療密着型病院では，地域に根ざした医療，地域包括ケア，在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

なお，特別連携施設である塩竈市立病院，公立黒川病院，渋川内科医院での研修は，仙台市立病院の研修プログラム管理委員会および研修委員会が管理と指導の責任を負い，仙台市立病院の担当指導医が各施設の上級医とともに専攻医の研修指導にあたり，指導の質を保ちます。

10. 地域医療に関する研修計画【整備基準 28, 29】

本プログラムでは，一時点的な症例の経験だけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉までの診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています。

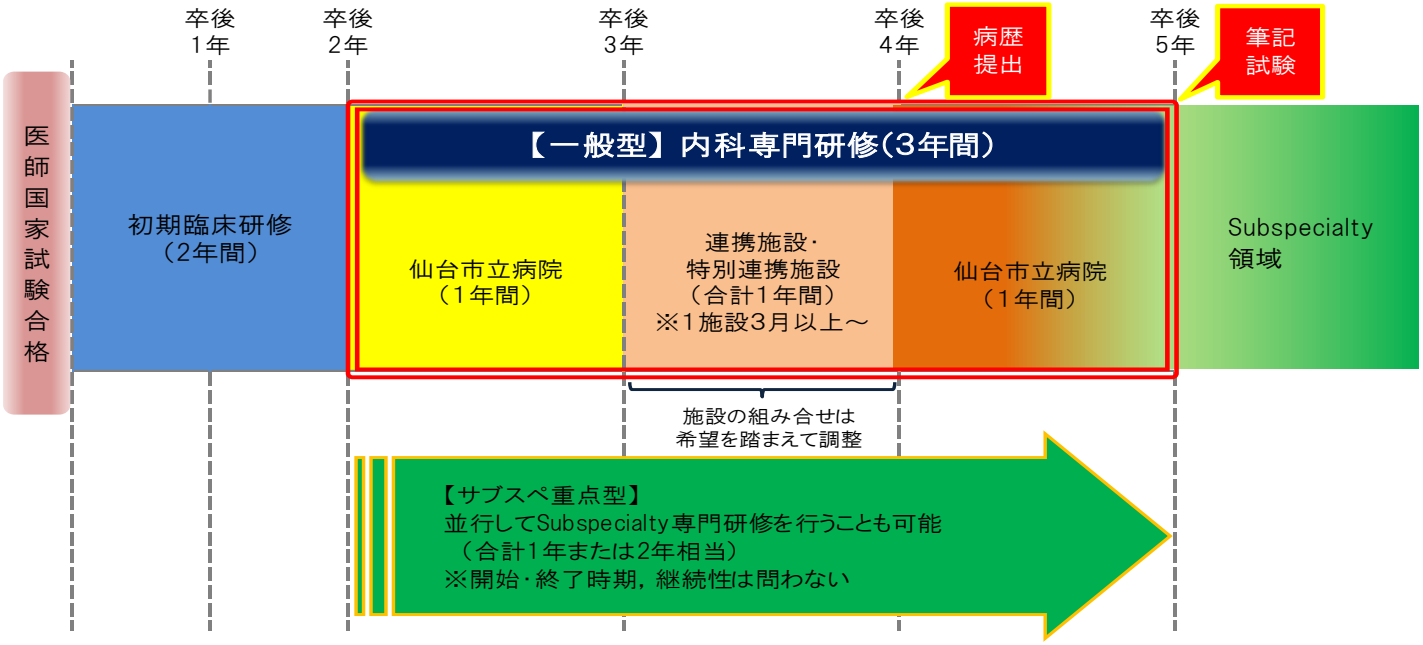
11. 内科専攻医研修（モデル）【整備基準 16】

基幹施設である『仙台市立病院重点コース』，『連携施設重点コース』，『内科・サブスペシャルティ混合コース』の 3 コースを設けています。

1) 仙台市立病院重点コース

【「仙台市立病院：2 年間／連携施設・特別連携施設：1 年間」の合計 3 年間】

＜パターン例①＞



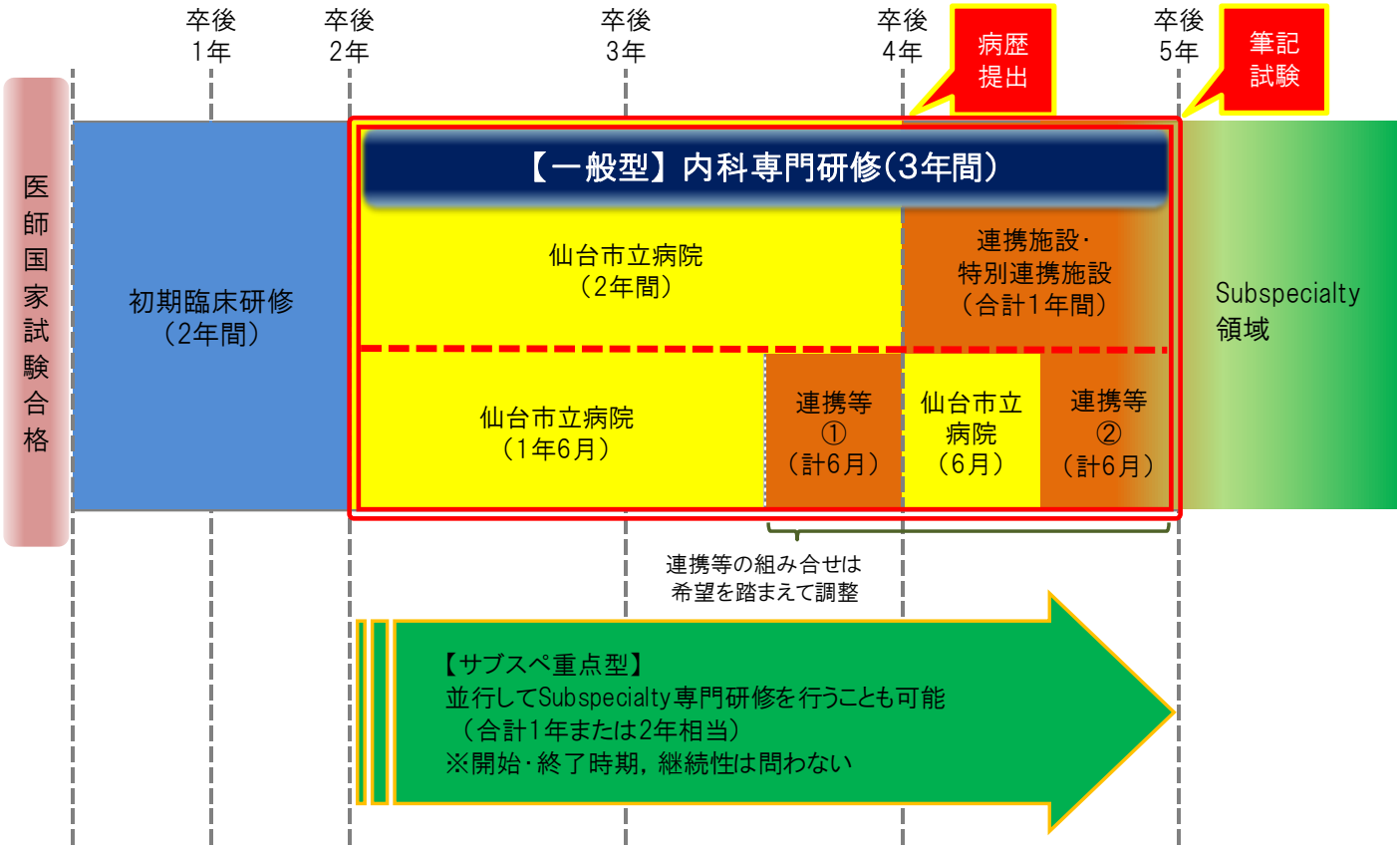
・専門研修（専攻医）1 年目は仙台市立病院で，2 年目は連携施設・特別連携施設において合計 1 年間の専門研修を行い，3 年目に再度仙台市立病院において専門研修を行うパターンです。仙台市立病院に 1 年間ずつ腰を据えて，専門研修を行うことができます。

・2 年目の連携施設等の研修期間は，1 施設当たり 3 ヶ月以上とし，原則として複数施設の組み合せにより合計 1 年間の研修とします。施設の組み合せについては，専攻医の希望を踏まえたうえで，仙台市立病院内科専門研修プログラム管理委員会において決定します。

・3 年目は，専攻医 2 年目の秋頃に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを調査・確認したうえ，仙台市立病院において修了認定に必要となる症例を中心に専門研修を行います。

・また，サブスペシャルティ重点型として，3 年間の 1 年または 2 年相当の期間を Subspecialty 専門研修と並行して研修することも可能です。専門研修の開始・終了時期，継続性は問いません。これにより，最短で卒後 7 年目で Subspecialty 領域の専門医試験を受験することが可能となります。（ただし 3 年間で内科専門研修を修了することが必須要件）

＜パターン例②＞



・将来の Subspecialty 領域専攻を見据え，東北大学病院等への入局を予定している専攻医は，こちらのパターンを想定しています。

・専門研修（専攻医）1 年目から 2 年目までの 2 年間を仙台市立病院で，3 年目は連携施設・特別連携施設を組み合せで 1 年間の専門研修を行うパターンです。なお，2 年目の後半 6 ヶ月の仙台市立病院での研修と，3 年目の前半 6 ヶ月の連携施設等での研修を入れ替えて行うことも可能です。1 年 6 月～2 年間，長期に渡り仙台市立病院で専門研修を行うとともに，3 年目以降のキャリアパス形成にも対応可能となっています。

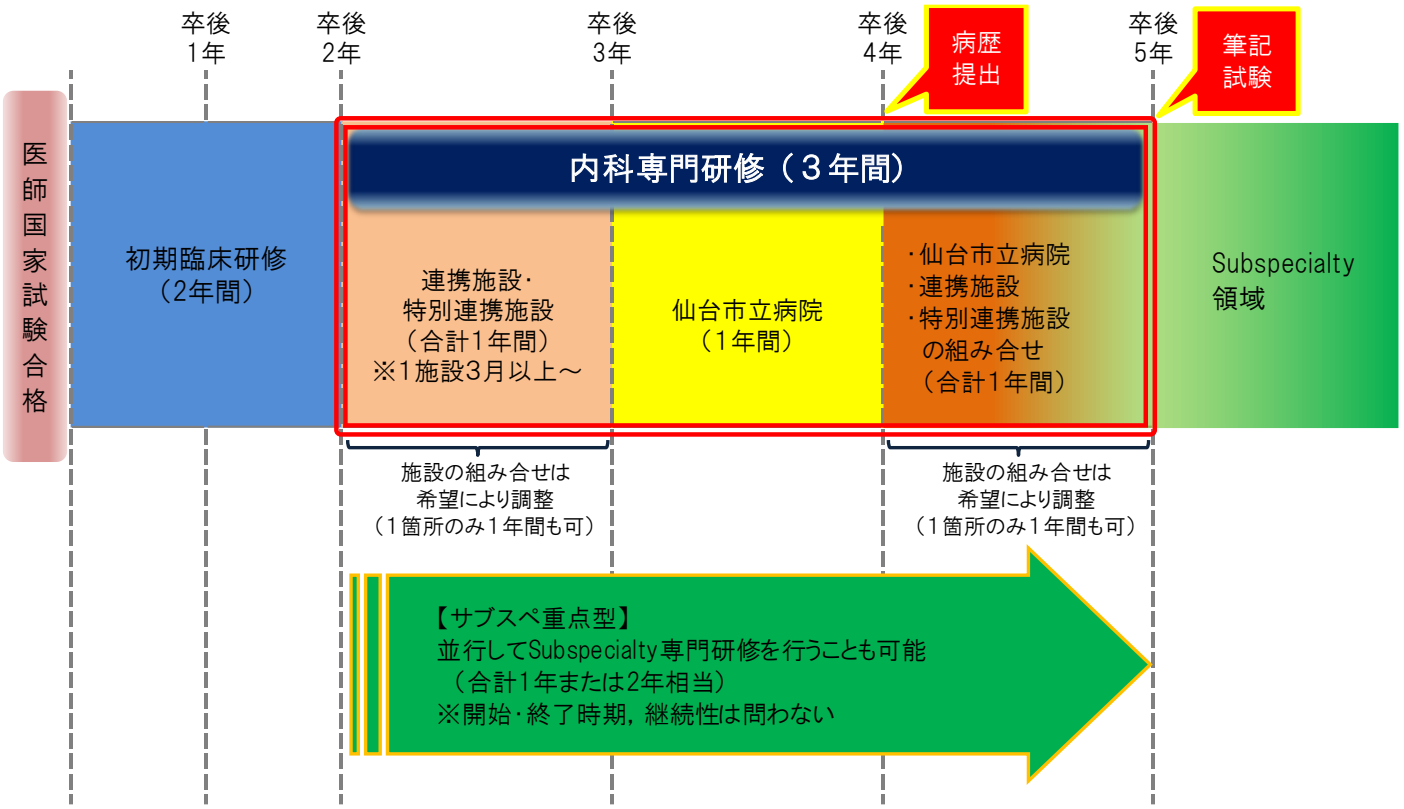
・2 年目又は 3 年目の連携施設等での研修期間は，1 施設当たり 3 ヶ月以上（ただし，東北大学病院を選択する場合は 6 ヶ月以上）とし，原則として複数施設の組み合せにより合計 1 年間の研修とします。施設の組み合せについては，専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを調査・確認したうえ，仙台市立病院内科専門研修プログラム管理委員会において決定します。

・また，サブスペシャルティ重点型として，3 年間の 1 年または 2 年相当の期間を Subspecialty 専門研修と並行して研修することも可能です。専門研修の開始・終了時期，継続性は問いません。これにより，最短で卒後 7 年目で Subspecialty 領域の専門医試験を受験することが可能となります。（ただし 3 年間で内科専門研修を修了することが必須要件）

2） 連携施設重点コース

【研修施設の組み合せにより，「仙台市立病院：1 年以上／連携施設・特別連携施設：1 年以上」で，合計 3 年間】

＜パターン例＞



・専門研修（専攻医）1 年目に連携施設・特別連携施設において専門研修を行い，2 年目は基幹施設である仙台市立病院で，3 年目は仙台市立病院・連携施設・特別連携施設を組み合せで 1 年間の専門研修を行うコースです。初期研修から引き続き同一施設で専門研修を開始したい場合や，専門研修 3 年目以降のキャリアパス形成にも対応可能となっています。

・1 年目の連携施設等の研修期間は，1 施設当たり 3 ヶ月以上とし，合計 1 年間の研修とします。『仙台市立病院重点コース』とは異なり，1 施設のみで 1 年間研修する（初期研修を修了した臨床研修病院にて引き続き専門研修を 1 年間行う等）ことも可能です。研修施設の組み合せについては，専攻医の希望を踏まえたうえで，仙台市立病院内科専門研修プログラム管理委員会において決定します。

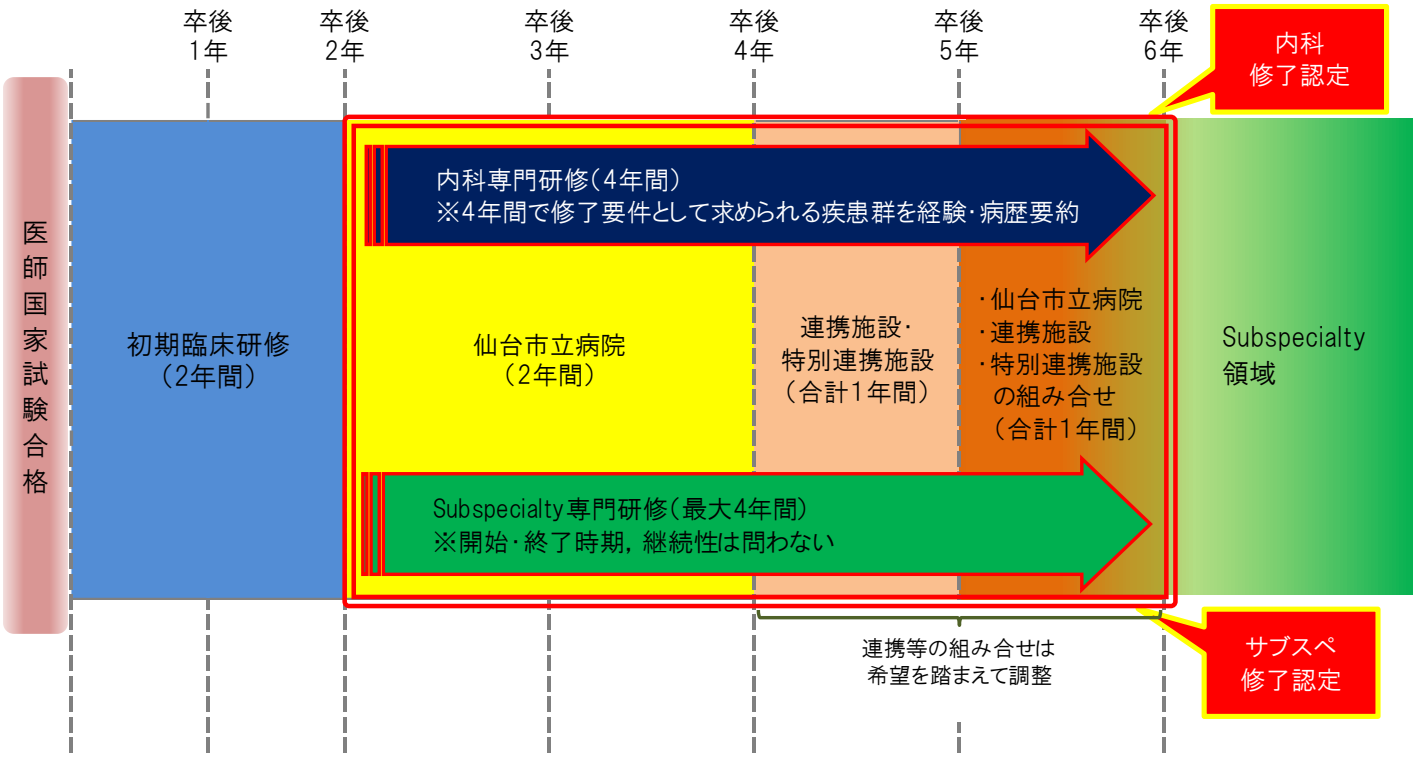
・3 年目は，専攻医 2 年目の秋頃に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを調査・確認したうえ，研修施設を組み合せて 1 年間，修了認定に必要となる症例を中心に専門研修を行います。なお，3 年目の研修施設の組み合せについては，専攻医の希望を踏まえたうえで，仙台市立病院内科専門研修プログラム管理委員会において決定します。

・また，サブスペシャルティ重点型として，3 年間の 1 年または 2 年相当の期間を Subspecialty 専門研修と並行して研修することも可能です。専門研修の開始・終了時期，継続性は問いません。これにより，最短で卒後 7 年目で Subspecialty 領域の専門医試験を受験することが可能となります。（ただし 3 年間で内科専門研修を修了することが必須要件）

3） 内科・サブスペシャルティ混合コース

【研修施設の組み合せにより，「仙台市立病院：2年以上／連携施設・特別連携施設：1年以上」で，合計4年間とし，その間に内科専門研修とSubspecialty専門研修を並行して行う】

＜パターン例＞



・『仙台市立病院重点コース』『連携施設重点コース』はいずれも専門研修期間を 3 年間とし，内科専門研修を修了した後にSubspecialty専門研修を行うことを前提としています。各コースに　サブスペ重点型（並行研修）を設けていますが，これは3年間のうち合計1年または2年相当分の並行研修を認めるもので，3年間の研修修了後，1年以上のSubspecialty専門研修期間を経てSubspecialty領域の専門医取得を目指します。

・それに対してこの混合コースは，研修期間を 4 年間で設定し，やや余裕を持って内科専門研修を実施するのと同時に，Subspecialty 専門研修を同期間で併せて行うものです。4 年間で内科専門研修，SubSpecialty 専門研修を同時に修了することで，卒後 7 年目に内科専門医試験に合格，その後同じ年度にSubspecialty領域の専門医試験を受験することも可能となり，従来と比較してSubspecialty領域の専門医資格の取得が遅れることはありません。

・4年間の研修施設の組み合せは，原則として「仙台市立病院：2年間以上，連携施設・特別連携施設：1 年間以上」で，合計 4 年間とします。なお，上記パターンは一例であり，『仙台市立病院重点コース』『連携施設重点コース』のいずれのパターンでも混合コースによる研修施設の組み合せを設定することが可能です。

12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17,19～22】

1) 基幹施設（仙台市立病院）の役割

・仙台市立病院内科専門研修プログラム管理委員会を設置し，プログラムを統括します。

・ 仙台市立病院内科専門研修プログラム開始時に，各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）の研修手帳 Web 版を基にカテゴリー別の充足状況を確認します。

・3 か月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し，専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します。また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。

・6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し，専攻医による病歴要約の作成を促します。また，各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。

・6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。

・ 年に複数回，専攻医自身の自己評価を行います。その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通じて集計され，1 か月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って，改善を促します。

・ メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回行います。担当指導医，Subspecialty 上級医に加えて，看護師長，看護師，臨床検査・放射線技師・臨床工学技士，事務員などから，接点の多い職員 5 人を指名し，評価します。評価表では社会人としての適性，医師としての適正，コミュニケーション，チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します。評価は無記名方式で，プログラム統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 2～5 名以上の複数職種に回答を依頼し，その回答は担当指導医が取りまとめ，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します（他職種はシステムにアクセスしません）。その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通じて集計され，担当指導医から形成的にフィードバックを行います。

・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します。

2) 専攻医と担当指導医の役割

・専攻医 1 人に対し，1 人の担当指導医（メンター）が仙台市立病院内科専門研修プログラム管理委員会により決定されます。

・ 専攻医は web にて日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録し，担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。

・専攻医は，1 年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群，40 症例以上の経験と登録を行うようにします。2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群，80 症例以上の経験と登録を行うようにします。3 年目専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群，120 症例以上の経験の登録を修了します。それぞれの年次で登録された内容は都度，担当指導医が評価・承認します。

・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り，研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し，専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当

指導医とSubspecialtyの上級医は，専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう，主担当医の割り振りを調整します。

・担当指導医はSubspecialty上級医と協議し，知識，技能の評価を行います。

・ 専攻医は，専門研修（専攻医）2年修了時までに29症例の病歴要約を順次作成し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します。担当指導医は専攻医が合計29症例の病歴要約を作成することを促進し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）による査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し，形成的な指導を行います。専攻医は，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）のピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき，専門研修（専攻医）3年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します。これによって病歴記載能力を形成的に深化させます。

3) 評価の検討

評価の責任者年度ごとに担当指導医が評価を行い，基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します。その結果を年度ごとに仙台市立病院内科専門研修プログラム管理委員会で検討し，統括責任者が承認します。

4) 修了判定基準【整備基準53】

・担当指導医は，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて研修内容を評価し，以下i）～vi）の修了を確認します。

i）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全70疾患群を経験し，計200症例以上（外来症例は20症例まで含めることが可能）を経験することを目標とし，その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録する。修了認定には，主担当医として通算で最低56疾患群以上の経験と計120症例以上の症例（外来症例は登録症例の1割まで含めることが可能）を経験し，登録済みであることを要する（別表 1「仙台市立病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。

ii）29 病歴要約の日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）による査読・形成的評価後の受理（アクセプト）

iii）所定の2編の学会発表または論文発表

iv）JMECC受講

v）プログラムで定める講習会受講

vi）日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いてメディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し，社会人である医師としての適性

・仙台市立病院内科専門医研修プログラム管理委員会は，当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し，研修期間修了約1か月前に合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」，「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用います。なお，「仙台市立病院内科専門研修プログラム専攻医研修マニュアル」【整備基準44】と「仙台市立病院内科専門研修プログラム指導医マニュアル」【整備基準45】は別に示します。

13. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34,35,37～39】

1）仙台市立病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準

i）仙台市立病院内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。当該委員会は，統括責任者，プログラム管理者，事務局代表者，内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者および連携施設担当委員で構成されます。また，オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させます（P.64「仙台市立病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照）。当該委員会の事務局を，経営管理部総務課におきます。

ii）仙台市立病院内科専門研修施設群は，基幹施設，連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します。委員長 1 名（指導医）は，基幹施設との連携のもと活動するとともに，専攻医に関する情報を定期的に共有するために，毎年定期的に開催する仙台市立病院内科専門研修プログラム管理委員会の委員として出席します。

iii）基幹施設，連携施設ともに，毎年 4 月 30 日までに，仙台市立病院内科専門研修プログラム管理委員会に以下の報告を行います。

① 前年度の診療実績

a）病院病床数，b）内科病床数，c）内科診療科数，d）１か月あたり内科外来患者数，
e）1 か月あたり内科入院患者数，f）剖検数

② 専門研修指導医数および専攻医数

a）前年度の専攻医の指導実績，b）今年度の指導医数/総合内科専門医数，
c）今年度の専攻医数，d）次年度の専攻医受け入れ可能人数。

③ 前年度の学術活動

a）学会発表，b）論文発表

④ 施設状況

a）施設区分，b）指導可能領域，c）内科カンファレンス，d）他科との合同カンファレンス，
e）抄読会，f）机，g）図書館，h）文献検索システム，
i）医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会，j）JMECC の開催

⑤ Subspecialty 領域の専門医数

日本消化器病学会消化器専門医数，日本循環器学会循環器専門医数，
日本内分泌学会専門医数，日本糖尿病学会専門医数，日本腎臓病学会専門医数，
日本呼吸器学会呼吸器専門医数，日本血液学会血液専門医数，
日本神経学会神経内科専門医数，日本アレルギー学会専門医（内科）数，
日本リウマチ学会専門医数，日本感染症学会専門医数，日本救急医学会救急科専門医数

14. プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18,43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を活用します。

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。指導者研修（FD）の実施記録として，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用います。

15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします。

専門研修（専攻医）は，3 ヶ月以上連続して研修を行う場合は，原則として，実際に研修を行う各施設（仙台市立病院，連携施設，特別連携施設）の就業環境に基づき就業します。専門研修施設群の各研修施設の状況については，P.20「仙台市立病院内科専門研修施設群」のとおりです。

なお，総括的評価を行う際，専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い，その内容は仙台市立病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されます。評価には労働時間，当直回数，給与など，労働条件についての内容が含まれ，不適切と考えられる場合は改善に努めます。

＜基幹施設である仙台市立病院の整備状況＞

- 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- 原則として，卒後 3・4 年目は会計年度任用職員として，5 年目は当院正職員（医員）として労務環境が保障されています。
- メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課担当）があります。
- ハラスメントに関する外部相談窓口を整備しています。委員会は設置済ですが，啓発の場としての位置付けです。具体の相談は内部又は外部の相談機関になります。
- 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。
- 敷地内に院内保育所があります。

16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】

1） 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて，無記名式逆評価を行います。逆評価は年に複数回行います。また，年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には，研修施設ごとに逆評価を行います。その集計結果は担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧します。また集計結果に基づき，仙台市立病院内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

2） 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス

専門研修施設の内科専門研修委員会，仙台市立病院内科専門研修プログラム管理委員会および日本専門医機構内科領域研修委員会は，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて，専攻医の逆評価，専攻医の研修状況を把握します。把握した事項については，仙台市立病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します。

① 即時改善を要する事項
② 年度内に改善を要する事項
③ 数年をかけて改善を要する事項
④ 内科領域全体で改善を要する事項
⑤ 特に改善を要しない事項

なお，研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難である場合は，専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

担当指導医，施設の内科研修委員会，仙台市立病院内科専門研修プログラム管理委員会および日

本専門医機構内科領域研修委員会は，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタリングし，仙台市立病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して仙台市立病院内科専門研修プログラムを評価します。併せて，担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタリングし，自律的な改善に役立てます。状況によって，日本専門医機構内科領域研修委員会の支援，指導を受け入れ，改善に役立てます。

3）研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

仙台市立病院内科専門研修プログラム管理委員会は，仙台市立病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します。その評価を基に，必要に応じて仙台市立病院内科専門研修プログラムの改良を行います。

仙台市立病院内科専門研修プログラム更新の際には，サイトビジットによる評価の結果と改善策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します。

17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は，website 等での公表や説明会などを行い，内科専攻医を募集します。翌年度のプログラムへの応募者は，別に定める日までに仙台市立病院の website 等で公開する仙台市立病院内科専門研修募集要項に従って応募します。書類選考および面接を行い，仙台市立病院内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し，本人に文書で通知します。

＜問い合わせ先＞　仙台市立病院経営管理部総務課人事研修係
〒982-8502　宮城県仙台市太白区あすと長町一丁目 1 番 1 号
TEL　022-308-7111（内線 2116）
E-mail　hpjinji@city.sendai.jp
HP　http://hospital.city.sendai.jp/

なお，仙台市立病院内科専門研修プログラムを開始した専攻医は，遅滞なく日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にて登録を行います。

18. 内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には，適切に日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて本プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し，担当指導医が認証します。これに基づき，仙台市立病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が，その継続的研修を相互に認証することにより，専攻医の継続的な研修を認めます。他の内科専門研修プログラムから本プログラムへの移動の場合も同様です。

他の領域から本プログラムに移行する場合，他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修を始める場合，あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には，当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し，担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め，さらに仙台市立病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）への登録を認めます。なお，症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります。

疾病あるいは妊娠・出産，産前後に伴う研修期間の休止については，プログラム終了要件を満たしており，かつ休職期間が 6 ヶ月以内であれば，研修期間を延長する必要はないものとします。こ

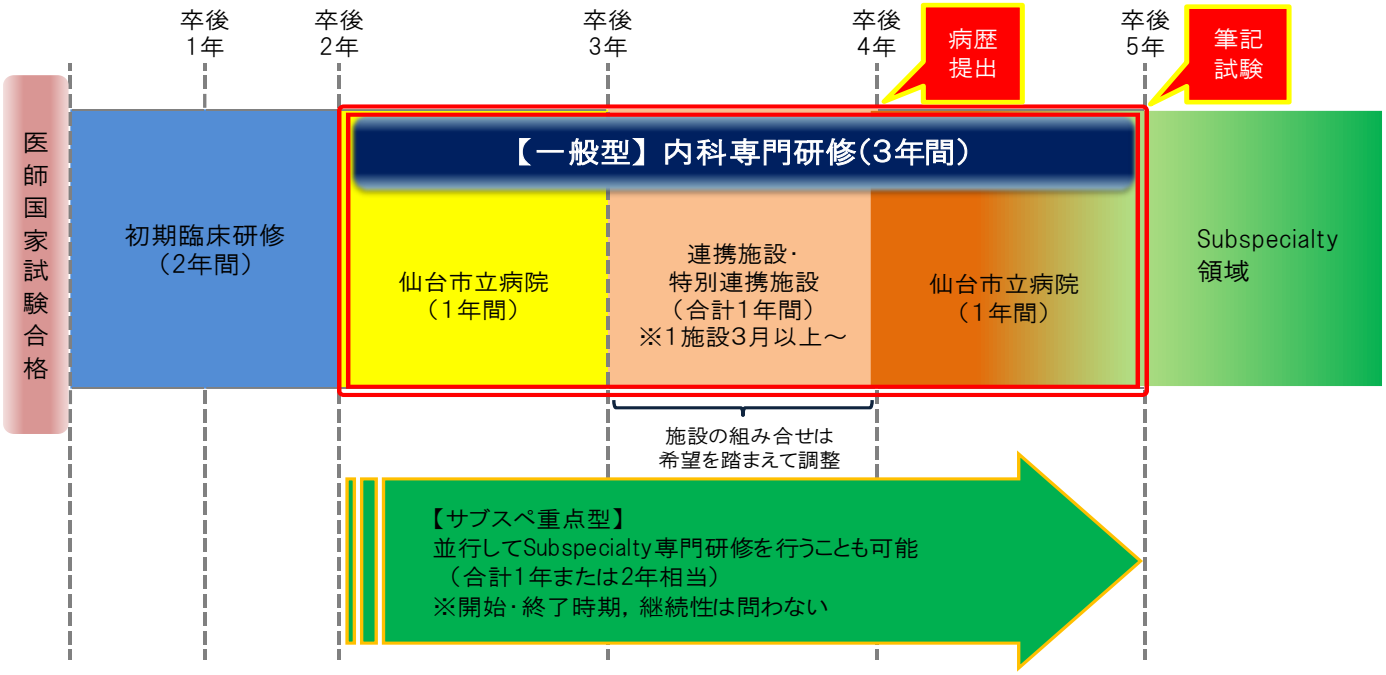
れを超える期間の休止の場合は，研修期間の延長が必要です。短時間の非常勤勤務期間などがある場合，按分計算（1 日 8 時間，週 5 日を基本単位とします）を行なうことによって，研修実績に加算します。留学期間は，原則として研修期間として認めません。

仙台市立病院内科専門研修施設群

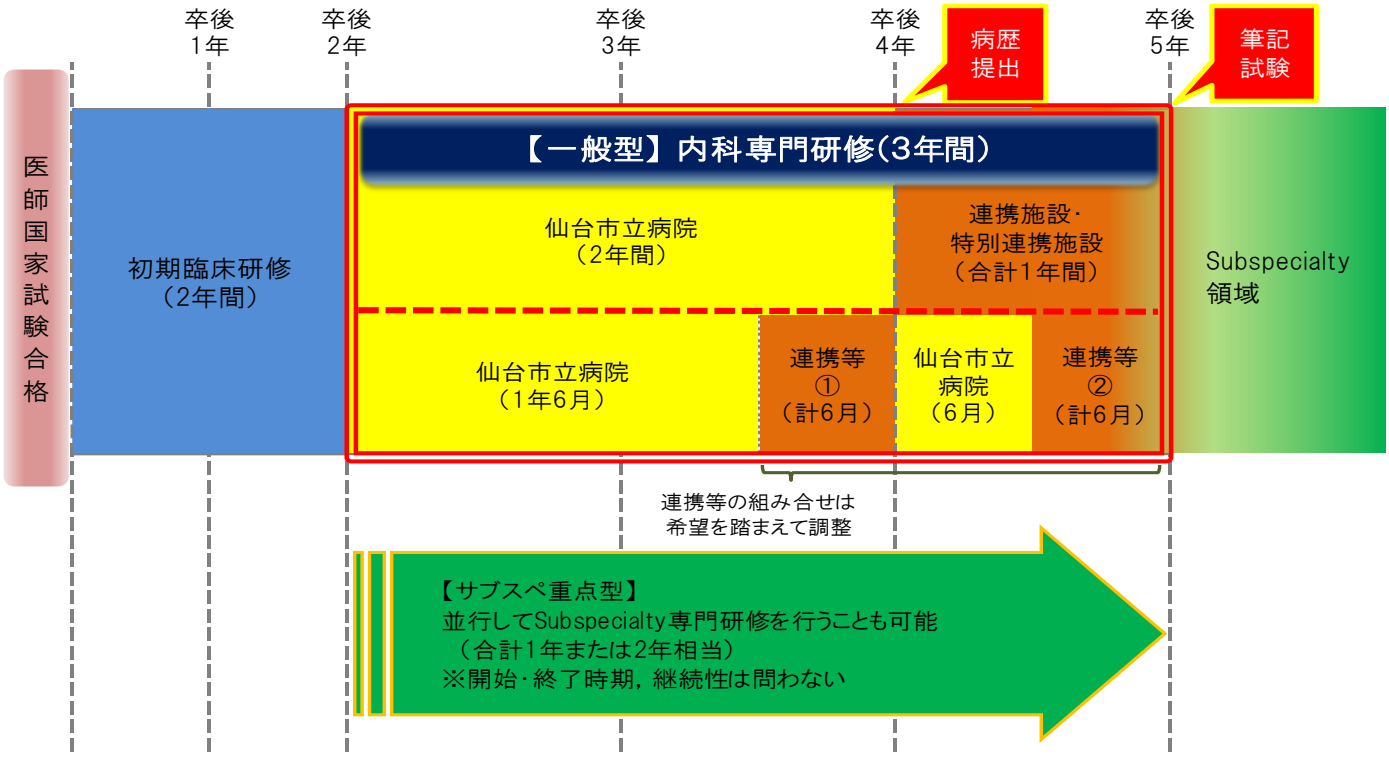
研修期間：3 年間【基幹施設 1 年間以上，連携・特別連携施設 1 年間以上の合計】

■仙台市立病院重点コース
【「仙台市立病院：2 年間／連携施設・特別連携施設：1 年間」の合計 3 年間】

＜パターン例①＞

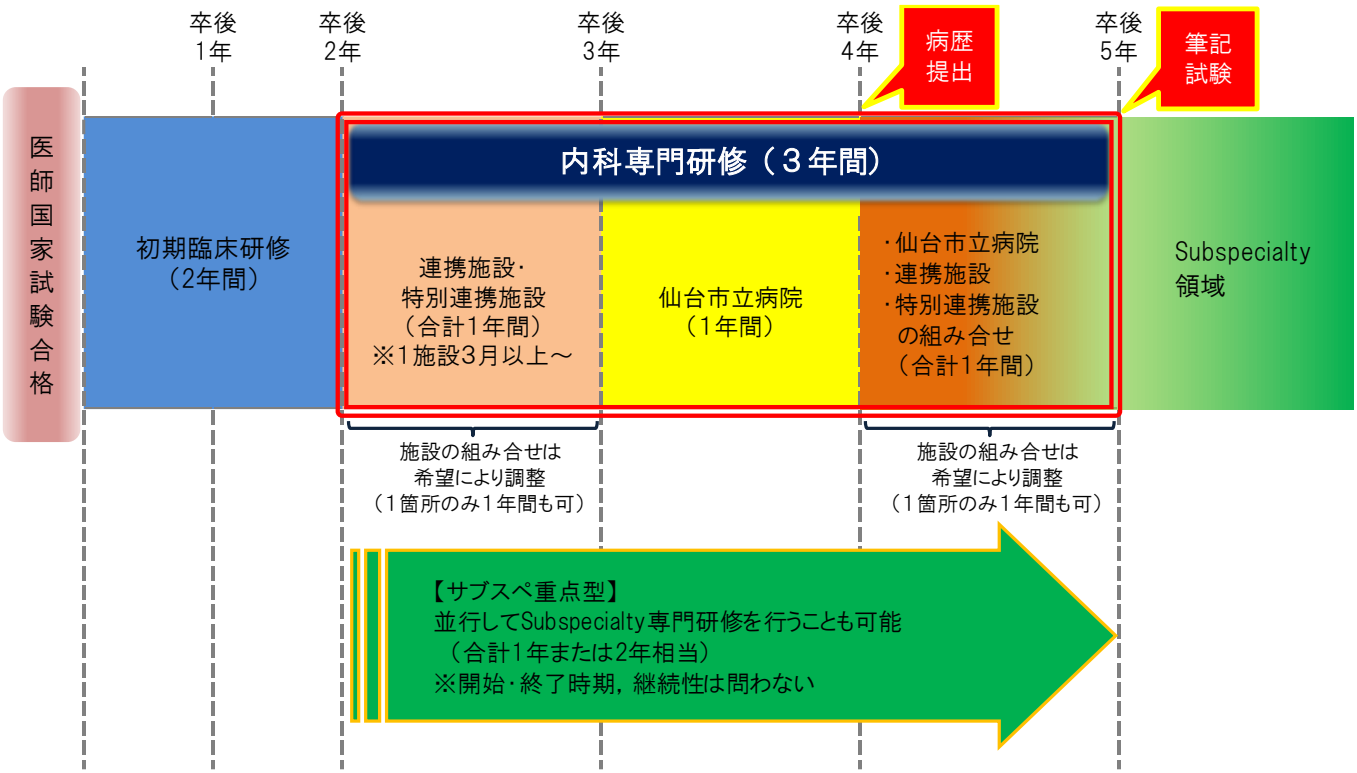


＜パターン例②＞



■連携施設重点コース

【研修施設の組み合せにより，「仙台市立病院：1年以上／連携施設・特別連携施設：1年以上」で，合計3年間】



研修期間：4年間【基幹施設2年間以上，連携・特別連携施設1年間以上の合計】

■内科・サブスペシャルティ混合コース

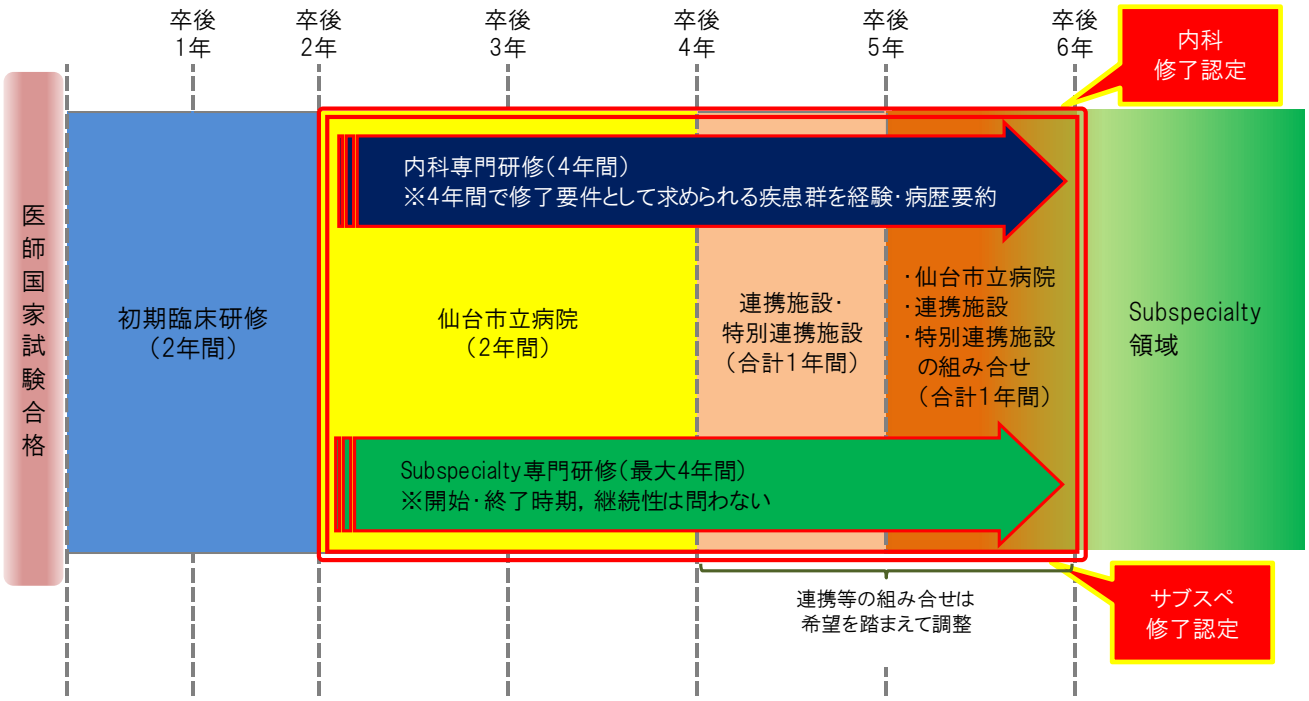


表 1. 仙台市立病院内科専門研修施設群研修施設

区分	病院名	病床数	うち内科系	内科系診療科数	内科系指導医数	総合内科専門医数	内科剖検数
基幹	仙台市立病院	525	176	9	25	19	8
連携	東北大学病院	1,144	295	14	116	87	4
連携	仙台オープン病院	330	208	3	15	12	1
連携	仙台西多賀病院	440	290	5	7	3	0
連携	仙台医療センター	660	248	12	21	24	5
連携	JCHO 仙台病院	384	160	6	15	13	3
連携	東北労災病院	538	182	9	22	14	8
連携	大崎市民病院	500	218	12	28	19	3
連携	東北医科薬科大学病院	588	248	10	48	47	5
連携	岩手県立中央病院	685	310	9	25	20	13
連携	国立循環器病研究センター	527	279	11	72	50	10
連携	みやぎ県南中核病院	310	216	12	17	16	7
連携	宮城県立がんセンター	383	135	6	11	8	0
連携	気仙沼市立病院	340	98	3	6	4	−
連携	栗原市立栗原中央病院	313	204	5	5	8	1
連携	登米市立登米市民病院	198	51	1	2	2	0
連携	石巻赤十字病院	460	184	8	19	14	8
連携	岩手県立中部病院	434	189	8	7	5	1
連携	聖隷浜松病院	750	345	9	19	30	6

※指導医・専門医数：2026 年 4 月時点
※内科剖検数：直近の実績

表 2. 各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

病院名	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
仙台市立病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
東北大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
仙台オープン病院	○	○	○	×	△	△	○	△	△	○	△	○	○
仙台西多賀病院	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×
仙台医療センター	○	○	○	○	○	△	○	○	○	△	△	△	○
JCHO 仙台病院	○	○	○	○	○	○	△	△	△	○	○	○	○
東北労災病院	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○
大崎市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
東北医科薬科大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岩手県立中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国立循環器病研究センター	△	×	○	○	○	○	×	×	○	×	×	△	○
みやぎ県南中核病院	○	○	○	△	○	○	○	△	○	○	△	△	○
宮城県立がんセンター	○	○	△	△	△	△	○	○	△	△	△	△	△
気仙沼市立病院	△	○	○	△	△	△	○	△	×	△	×	△	△
栗原市立栗原中央病院	○	○	○	○	○	×	○	×	○	△	△	○	○
登米市立登米市民病院	○	○	○	×	○	△	△	×	×	×	×	×	○
石巻赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岩手県立中部病院	○	○	○	○	○	△	○	○	○	△	△	○	○
聖隷浜松病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
塩竈市立病院	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
公立黒川病院	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
渋川内科医院	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×

各研修施設での内科 13 領域における臨床経験の研修可能性を 3 段階（○，△，×に評価しました）
（○：研修できる，△：時に研修できる，×：ほとんど研修できない）

専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修が必須です。本プログラムの研修施設群は宮城県仙台医療圏及び近隣医療圏の医療機関から構成されています。

仙台市立病院は，宮城県仙台医療圏の中心的な急性期病院であり，地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します。また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設・特別連携施設は，内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，地域医療や全人的医療を組み合わせて，急性期医療・慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に，高次機能・専門病院，地域基幹病院および地域医療密着型病院で構成しています。

高次機能・専門病院では，高度な急性期医療，より専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療経験を研修し，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。地域基幹施設では，仙台市立病院と異なる環境で，地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。地域医療密着型病院では，地域に根ざした医療，地域包括ケア，在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

専門研修施設（連携施設・特別連携施設）の選択

- 連携施設重点コースの場合は専攻医 1 年目，仙台市立病院重点コースの場合は専攻医 2 年目において連携施設等で研修を行いますが，その施設の選択については，専攻医の希望を踏まえたうえで，仙台市立病院内科専門研修プログラム管理委員会において研修施設を調整し，決定します。
- 連携施設重点コースの場合の専攻医 3 年目は，専攻医 2 年目の秋頃に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを調査・確認したうえで，仙台市立病院内科専門研修プログラム管理委員会において決定します。
- なお，研修達成度によっては，Subspecialty 領域研修とオーバーラップして研修することも可能です（専攻医ごとに異なります）。

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

宮城県仙台医療圏と近隣医療圏にある施設から構成しています。宮城県内各地の連携施設等へは，仙台市立病院から車を利用して最大 2 時間程度の移動時間であり，移動や連携が十分可能なものとなっています。

1)専門研修基幹施設

1. 仙台市立病院

認定基準 【整備基準23】 1) 専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·仙台市立病院の会計年度任用職員または正職員として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課~~職員~~担当）があります。 ·ハラスメント対策委員会を院内に整備しています。 （具体の相談について内部又は外部の相談機関を整備しています。） ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準23】 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医は25名在籍しています。 ·内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者及びプログラム管理者（消化器内科部長）※指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（医療倫理1回 医療安全10回 感染対策2～4回程度開催予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（10回程度開催予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（年6回開催予定）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会が対応します。 ·特別連携施設の専門研修の際は，電話や当院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準23】 3) 診療経験の環境	·カリキュラムに示す内科領域全13分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ·70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ·専門研修に必要な剖検（2025年度実績8体、2024年度実績8体、2022年度実績3体）を行っています。
認定基準 【整備基準23】 4) 学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ·倫理委員会を設置し，定期的に開催（年6回予定）しています。 ·治験審査委員会を定期的に開催（年6回予定）しています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計10演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	菊地　達也 【内科専攻医へのメッセージ】 仙台市立病院は，宮城県仙台医療圏の中心的な急性期病院であり，仙台医療圏及

	び近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 　当院における研修では，ほぼ全ての内科系領域を幅広く経験することができ，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になれるよう，指導に尽力して参ります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 14 名，日本内科学会総合内科専門医 19 名 日本消化器病学会消化器病専門医 5 名，日本循環器学会循環器専門医 9 名， 日本糖尿病学会専門医 2 名，日本腎臓病学会専門医 1 名， 日本肝臓学会専門医 1 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名， 日本血液学会血液専門医 3 名，日本神経学会神経内科専門医 1 名， 日本感染症学会専門医 1 名，日本救急医学会救急科専門医 1 名　ほか
外来・入院患者数	外来患者 20,235 名（1 ヶ月平均）　入院患者 12,419 名（1 ヶ月平均） ※どちらも延べ人数
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	宮城県より地域医療支援病院の承認を受けており，地域完結型医療の推進に努めています。総合サポートセンターを設置しており，地域の医療機関との急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会教育関連施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本脈管学会研修指定施設 日本呼吸療法医学会専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ 日本感染症学会研修施設 など

2)専門研修連携施設

1. 東北大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·東北大学病院医員（後期研修医）として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（安全衛生管理室）があります。 ·ハラスメント防止委員会が学内に整備されています。 ·院内に女性医師支援推進室を設置し、女性医師の労働条件や職場環境に関する支援を行っています。 ·近隣に定員 120 名の大規模な院内保育所があり（1991 年 4 月開所）、敷地内にある軽症病児・病後児保育室も利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が 116 名在籍しています。 ·内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 45 回、感染対策 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·内科系診療科合同のカンファレンス（2025 年度実績 12 回）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 10 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（2025 年度実績 27 回）を定期的に開催しています。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全分野（総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2025 年度実績 21 演題）をしています。
指導責任者	青木正志（脳神経内科　科長） 【内科専攻医へのメッセージ】 　東北大学病院は、特定機能病院として、さらには国の定める臨床研究中核病院としてさまざまな難病の治療や新しい治療法の開発に取り組み、高度かつ最先端の医療を実践するために、最新の医療整備を備え、優秀な医療スタッフを揃えた日本を代表する大学病院です。 　地域医療の拠点として、宮城県はもとより、東北、北海道、北関東の広域にわたり協力病院があり、優秀な臨床医が地域医療を支えるとともに、多くの若い医師の指導にあたっています。 　本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また、単に内科医を養成するだけでなく、地域医療における指導的医師、医工学や再生医療などの先進医療に携わる医師、大学院において専門的な学位取得を目指す医師、更には国際社会で活躍する医師等の将来構想を持つ若い医師の支援と育成を目的としています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 43 名、日本内科学会総合内科専門医 87 名、 日本消化器病学会消化器専門医 20 名、日本肝臓学会肝臓専門医 5 名、 日本循環器学会循環器専門医 16 名、日本内分泌学会専門医 11 名、 日本腎臓病学会専門医 11 名、日本糖尿病学会専門医 11 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 20 名、日本血液学会血液専門医 7 名、 日本神経学会神経内科専門医 14 名、日本アレルギー学会専門医（内科）7 名、

	日本リウマチ学会専門医 4 名、日本感染症学会専門医 2 名、 日本老年学会老年病専門医 2 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 774 名（内科系・1 日平均）　入院患者 292 名（内科系・1 日平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育施設 日本臨床検査医学会認定研修施設 日本環境感染学会認定教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本高血圧学会高血圧認定研修施設 日本アフェレシス学会認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本リウマチ学会教育認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本心療内科学会専門研修施設 日本心身医学会研修診療施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本神経学会認定教育施設 日本循環器学会認定循環器研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本透析医学会認定施設 日本大腸肛門病学会大腸肛門病認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本老年医学会認定施設 日本東洋医学会指定研修施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

2. 仙台オープン病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·（公財）仙台市医療センター常勤医師として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課人事係担当）があります。 ·ハラスメント防止委員会が院内に設置されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育園があり利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医が 15 名在籍しています（下記）。 ·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ·医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療安全 4 回，感染対策 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 1 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（2025 年度実績 31 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，呼吸器，アレルギー，感染症，救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室があり，院内 LAN 接続 PC からは電子ジャーナルでの文献検索が可能です。 ·倫理委員会を設置しています。 ·治験審査委員会を設置し，定期的に開催（2025 年度実績 9 回）しています。 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2024 年度実績 2 演題）をしています。 また，内科系学会での発表は 89 演題（うち，初期研修と卒後 3～6 年目の内科専門研修中の医師が筆頭演者の発表は 8 演題）です。
指導責任者	伊藤　啓 【内科専攻医へのメッセージ】 宮城県の仙台市にある急性期病院として，消化器・循環器・呼吸器を中心に，先進的な高度医療を提供する医療機関として，全国でも高く評価されています。地域医療支援病院（全国認定第 1 号）および災害拠点病院，救急病院（二次救急），併設の健診センターを有し，県内のみならず他県の医療機関などとも連携し，東北地方の地域医療を支えています。当院にない診療科は，近隣にある多くの連携施設で幅広く研修することも可能です。 【消化器】 消化器内科は，消化管疾患，肝胆膵疾患を専門に診療しています。9 室の内視鏡室と 3 室の内視鏡システムを備えた X 線 TV 室で，年間 24,000 件（平日 100－130 件/日）の内視鏡検査を行っています。年間約 10,000 件の腹部エコーも行っています。 ➢　消化管疾患の診療 特に内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を得意とし，多数の指導医や専門医が治療を担当しています。 ➢　肝胆膵疾患の診療

	ERCP や EUS を用いた胆膵領域の内視鏡診断と治療に関しては，全国でも屈指の施設として知られています。 ➢　学術活動への取り組み 国内外での発表や論文の執筆に積極的に取り組んでいます。当科主催のライブセミナーや研究会などを通じて社会貢献に務めています。 【循環器】 当科で最も得意とするのは虚血性心疾患に対するカテーテル治療（冠インターベンション：PCI）です。特に急性冠症候群（急性心筋梗塞，不安定狭心症）に対する緊急治療が多く，年間の緊急カテーテル件数は 120 件前後です。待機的 PCI と合わせて年間の PCI 件数は 200-240 例となっています。下肢動脈に対するインターベンションも施行しており年間 20 例前後です。冠動脈治療・下肢血管治療についてはワークショップの開催も多く，技術の向上を目指しています。 不整脈に対するカテーテル治療（アブレーション）も開始となり，症例を増やしています。増加が続く心不全に対しては内科的治療，心臓再同期療法に加えて，多職種による心不全チームで対応にあたっており，特に心臓リハビリテーションに力を入れています。 学会活動は非常に活発で，国際学会を含めた各種学会，研究会に多数発表し，情報の発信を行っています。 【呼吸器】 地域医療支援病院である当院には，呼吸器感染症，肺腫瘍，種々のびまん性肺疾患，気管支喘息，COPD，睡眠時無呼吸症候群など，第一線の臨床医が遭遇しやすく，かつ診断や治療に苦慮する症例が集まります。特に増加している肺癌の早期発見・診断に力を入れ，当院独自で開発したナビゲーションシステムを用い気管支鏡検査を多数施行しています。また，肺癌の治療もガイドラインに基づき多数手掛けています。 院内の各診療科間の連携も実に良好であり，受け持ち患者の併存症についての相談がしやすいのも当院の特徴です。院内他科からコンサルテーションを求められることも多く，特殊な肺感染性，間質性肺炎，呼吸機能障害による手術困難症例への治療介入，化学療法に伴う肺障害，難治性院内肺炎，人工呼吸器管理下での気管支鏡検査，術前術後の定期 CT 検査で見つかる小さな肺癌などで貢献しています。 【救急科】 当科では主として消化器，循環器，呼吸器，一般内科系の救急疾患を取り扱っています。年間の救急外来収容数は約 10,000 件，そのうち救急車の収容数は約 4,000 件（応需率約 70%）と仙台市内でも収容数・応需率共にトップクラスの病院です。 仙台市の二次救急病院としては唯一メディカルコントロール医療機関になっており，県・市の救急事業との連携も綿密です。週 1 回東北大学救急部からの応援をいただいており，高度救命センターでの方針も学べるようになっています。救急科と院内各診療科との連携もスムーズに行えており，北米 ER 型の診療を基本としています。日当直は指導医 1～2 名を含む 3 名が担っており，充実した診療を行える体制となっています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　15 名，日本内科学会総合内科専門医　12 名 日本消化器病学会指導医　5 名，日本消化器病学会消化器専門医　16 名 日本消化器内視鏡学会指導医　5 名，日本消化器内視鏡学会専門医　16 名 日本膵臓学会認定指導医　10 名，日本胆道学会指導医　8 名 日本超音波医学会指導医　3 名，日本超音波医学会超音波専門医　6 名 日本肝臓学会肝臓専門医　8 名，日本呼吸器学会指導医　2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医　4 名 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名

	日本心血管インターベンション治療学会専門医　2名 日本心血管インターベンション治療学会認定医　3名 日本循環器学会循環器専門医　5名，日本心臓病学会専門医（FJCC）1名ほか
外来･入院患者数	外来患者 270.4 名（1 日平均）　入院患者 230.9 名（1 日平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群のうち，7 領域，40 疾患群を経験することができます。
経験できる技術･技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に，消化器・循環器および呼吸器領域においては，より高度な専門技術を習得することが出来ます。
経験できる 地域医療･診療連携	当院は地域医療支援病院認定第 1 号であり，急性期医療は勿論，地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会新専門医制度内科専門研修基幹施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本呼吸器学会呼吸器内科専門研修連携施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器がん検診学会認定指導施設 栄養治療学会 NST 稼働施設 日本大腸肛門病学会関連施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本肝臓学会関連施設 日本膵臓学会認定指導施設　ほか

3. 仙台西多賀病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期医療研修における地域医療研修施設です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･仙台西多賀病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課）があります。 ･ハラスメント委員会が仙台市立病院に整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室が整備されています。 ･敷地内あるいは病院近傍に院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･内科指導医が 7 名在籍しています。 ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績　医療安全 14 回（各複数回開催），感染対策 2 回（各複数回開催））し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，脳神経分野で定常的に専門研修が可能

【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	長谷川　隆文 【内科専攻医へのメッセージ】 仙台西多賀病院は宮城県仙台市の南西部にあり，急性期一般病棟 200 床，療養病棟 240 床の合計 440 床を有し，地域の医療・福祉を担っています。仙台市立病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い，内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	日本神経学会認定神経内科指導医９名，日本認知症学会認定認知症指導医３名
外来・入院患者数	外来患者 123.0 名（1 日平均）　　入院患者 344.3 名（1 日平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある神経領域のうち，特にパーキンソン病関連疾患，認知症，筋疾患の３疾患群の症例を豊富に経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能のうち，特に神経系の領域について，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携を経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本神経学会認定教育施設，日本リウマチ学会認定教育施設など

4. 仙台医療センター

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院、日本内科学会認定医制度教育病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・期間職員(任期付常勤職員)として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(管理課職員担当)があります。 ・ハラスメント相談窓口が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり，夜間保育、病後保育利用可能です。
認定基準 【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 21 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(総合内科部長)，プログラム管理者(医長)、ともに指導医の資格あり)にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会（医長、指導医の資格あり）と専門医研修室を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。

	·CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に専門医研修室が対応します。 ・特別連携施設(公立刈田綜合病院)の専門研修では，週 1 回の仙台医療センターでの研修日を設け、研修指導を行います。
認定基準 【整備基準24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野で、定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 35 以上の疾患群)について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し，定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	菊地正 【内科専攻医へのメッセージ】 仙台医療センターは、内科教育病院として多数の初期研修医そして後期研修医を輩出してきました。本プログラムでは、これまでの歴史を土台にし、そして様々な診療機能を有する連携施設と連携施設群を形成することにより、骨太の内科医の育成を目指します。研修のモットーは「逞しく」「優しく」そして「よく考える」で、国民から信頼される内科専門医を目指します。 初期研修、内科専門医研修そして subspecialty 専門研修と、一歩一歩着実に、そしてシームレスに研修を進めることが目標です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 21 名，日本内科学会総合内科専門医 24 名,日本消化器病学会消化器専門医 6 名，日本循環器学会循環器専門医 6 名，日本糖尿病学会専門医 2 名，日本肝臓病学会専門医 1 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名，日本血液学会血液専門医 4 名，日本腎臓学会専門医 1 名,日本神経学会神経内科専門医 4 名，日本感染症学会専門医 2 名,日本内分泌学会専門医 3 名，日本アレルギー学会専門医 1 名,日本不整脈心電学会専門医 2 名,日本臨床腫瘍学会専門医 1 名,日本甲状腺学会専門医 1 名,日本病態栄養学会専門医 1 名ほか
外来・入院患者数	病院全体：外来患者 19,591 名（1 ヶ月平均延べ数) 入院患者 1,369 名（1 ヶ月平均) 内 科 系：外来患者 8,333 名（1 ヶ月平均延べ数) 入院患者 466 名（1 ヶ月平均)

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本神経学会教育関連施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌代謝学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本超音波医学会専門医研修施設 日本病態栄養学会認定施設 など

5. JCHO 仙台病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･ハラスメント，メンタルストレスに対応する職員が配置されています。 ･女性専攻医が安心して勤務出来るように，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています。 ･病院内に院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 15 名在籍しています。 ･医療安全・感染対策研修会を毎年 10 回以上定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･倫理委員会を設置し，必要時に開催しています。 ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 1 回）し，専攻医に受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催しており,専攻医に参加のための時間的余裕を与えます。 ・将来的に自院での JMECC 開催を目指していますが,開催できない期間は他院での JMECC 受講の機会を専攻医に与え,そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，血液，膠原病，アレルギー，感染症及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・倫理委員会が設置されており,定期的に開催されています。 ・臨床研究部が存在し,臨床研究を実施できる体制にあります。 日本内科学会講演会あるいは，同地方会に年間で計３演題以上の学会発表を予定しています。（2025 年度実績　7 題）
指導責任者	土屋　善慎（内科研修委員会委員長） 【内科専攻医へのメッセージ】 JCHO 仙台病院は，日本最大規模の腎センターを有しており，腎疾患および関連する免疫関連疾患，日和見感染症については極めて稀な症例を含め経験が可能です。それ以外の内科系診療科についても専門研修に十分な症例を担当しています。2021 年 5 月に仙台市泉区紫山へと新築移転いたしました。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　15 名 日本内科学会総合内科専門医　9 名 日本腎臓学会認定腎臓専門医　6 名 日本循環器学会循環器専門医　3 名 日本消化器病学会消化器専門医　3 名　ほか
外来・入院患者数	外来患者　120.7 名（内科のみ，1 日平均）　入院患者　46,551 名（年延数）
経験できる疾患群	総合内科・消化器・循環器・内分泌・代謝・腎臓・膠原病の分野を中心に，70 疾患群のうち 66 疾患群について幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することが出来ます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，地域に根差した医療，病診・病院連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院（日本内科学会） 日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設（日本循環器学会） 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設（日本心血管インターベンション治療学会） 日本消化器病学会認定施設（日本消化器病学会） 日本消化器内視鏡学会指導施設（日本消化器内視鏡学会） 日本胆道学会認定指導医制度指導施設（日本胆道学会） 日本腎臓学会研修施設（日本腎臓学会） 日本透析医学会専門医認定施設（日本透析医学会） 日本病院総合診療医学会認定施設 など

6.　東北労災病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･嘱託医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ･ハラスメント委員会が整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ･院内保育所があり，利用可能です。

認定基準 【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は22名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者，プログラム管理者（ともに内科指導医））にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023年度4回，2024年度4回，2025年度4回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（年2回予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･CPCを定期的に開催（2023年度4回，2024年度5回，2025年度5回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（仙台COPDの会，東北腹部画像診断研究会，東北膵・胆道疾患検討会，東北膵臓研究会，臨床医のための肝炎治療研究会，宮城県の肝疾患を考える若手の会，仙台消化管診断研究会，仙台内視鏡懇話会，仙台いちょう会，若手医師のための心・腎マスター懇話会，Miyagi Rhythm & Device Forumなど）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ･特別連携施設（広南病院）の専門研修では，電話や週1回の東北労災病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準24/31】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域13分野のうち11分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･70疾患群のうちほぼ58疾患群について研修できます。 ･専門研修に必要な剖検（2023年度5体，2024年度9体，2025度8体）を行っています。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し，定期的に開催しています。（2023年度10回，2024年度11回，2025年度8回）しています。
指導責任者	榊原 智博 【内科専攻医へのメッセージ】 東北労災病院は，宮城県仙台医療圏北部の中心的な急性期病院であり，仙台医療圏・関東地方にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い，内科専門医を目指します。臓器別の医療にこだわらない，総合内科医としてふさわしい内科医を養成することを目標としています。自覚があり，かつ責任感のある専攻医を期待しています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医22名 日本内科学会総合内科専門医14名 日本消化器病学会消化器専門医6名 日本循環器学会循環器専門医5名 日本糖尿病学会専門医4名 日本肝臓学会専門医2名 日本呼吸器学会呼吸器専門医2名 日本リウマチ学会専門医1名

外来・入院患者数	外来患者 17,347 名（1 ヶ月平均）　入院患者 11,337 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 11 領域，58 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会関連施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本超音波医学会超音波専門医研修施設 など

7. 大崎市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·大崎市民病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事厚生課保健衛生推進室担当）があります。 ・ハラスメント委員会が総務課に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 28 名在籍しています。（下記） ・プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会とアカデミック管理室を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 4 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・専門研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2026 年度予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。

	・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年度 1 回開催）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査にアカデミック管理室が対応します。 ・特別連携施設の専門研修では，電話や定期的な大崎市民病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群全て研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2025 年度実績 3 体，2024 年度 6 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し，随時開催（2025 年度実績 10 回）しています。 ・定期的に治験審査委員会を開催（2025 年度実績なし）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会で毎年３演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	岩淵　薫 【内科専攻医へのメッセージ】 大崎市民病院は，宮城県県北の医療圏において唯一，三次救急を担っている急性期病院です。当院では，内科系各科は全て揃っており，内科系以外も全科が揃っています。主担当医として，入院から退院，さらには外来まで，経時的に診断・治療を行い，集学的な考察，学際的な研究を可能です。各科の専門医が揃っており，全人的に医療を実践できる内科専門医となります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 18 名，日本内科学会総合内科専門医 19 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名，日本肝臓学会肝臓専門医 1 名 日本循環器学会循環器専門医 5 名，日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名，日本内分泌学会内分泌専門医 4 名，日本腎臓病学会腎臓専門医 1 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名，日本神経学会神経内科専門医 2 名，日本リウマチ学会専門医 1 名，日本血液学会血液専門医 2 名，ほか
外来・入院患者数 （救急除く）	外来患者 22,001 名（1 ヶ月平均） 入院患者 12,140 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群，200 症例以上の目標を当院のみで経験することが可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら，当院のみで幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地域医療支援病院として，地域のかかりつけ医療機関からの患者紹介を受け，高度・専門的な医療の提供を行います。症状の安定した患者については，地域の医療機関へ逆紹介するなど地域全体で医療の提供に取り組んでいます。入退院支援のほか，在宅医療への移行や就労支援にも力を入れています。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

	日本呼吸器学会連携施設 日本腎臓学会研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支内視鏡専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本血液学会専門研修教育施設 など

8. 東北医科薬科大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・臨床研修制度の基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ・東北医科薬科大学病院専攻医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（窓口）があります。 ・ハラスメントに適切に対処する窓口があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるよう更衣室・シャワー 室・当直室が整備されています。 ・職員のみ利用できる保育園があり、夜間保育も行っています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 48 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて，各研修施設との連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・ＣＰＣを定期的に開催し，参加のための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全ての専攻医にＪＭＥＣＣ受講を義務づけ，そのための時間的な余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスも定期的に開催を予定し，専攻医に参加するための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検を適切に行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究が可能な環境が整っています。 ・倫理委員会が設置されています。 ・臨床研究推進センター，治験センターが設置されています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で多数の学会発表をしています。
指導責任者	小暮　高之
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 48 名，日本内科学会総合内科専門医 47 名， 日本消化器病学会専門医 8 名，日本アレルギー学会専門医 3 名， 日本循環器学会専門医 11 名，日本リウマチ学会専門医 4 名， 日本内分泌学会 5 名，日本感染症学会専門医 4 名，

	日本腎臓学会専門医５名，日本糖尿病学会専門医５名， 日本呼吸器学会専門医６名，日本老年医学会専門医４名， 日本血液学会専門医４名，日本肝臓学会専門医２名， 日本神経学会専門医８名，日本臨床腫瘍学会専門医３名 日本消化器内視鏡学会専門医７名　ほか
外来・入院患者数	外来患者数：39,954 名・入院患者数：10,399 名［2025 年度実績］
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域， 70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本病院総合診療医学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設（耳鼻科、呼吸器内科） 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ 日本呼吸器学会認定施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本神経学会認定教育研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設（連携施設） 日本消化器内視鏡学会指導施設　など

9. 岩手県立中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・基幹型臨床研修病院であります。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境（Wi-Fi）があります。 ・岩手県立病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・院内各部署の職員の６名がハラスメント相談員として相談を受ける体制となっています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・日本内科学会指導医は 25 名、総合内科専門医は 20 名在籍しています。 ・内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されているプログラム管理委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績６回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績４回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

	・地域参加型のカンファレンス｛死亡検討会(毎週)、救急事例検討会（２か月毎）、緩和ケアカンファレンス（毎月）｝を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に業務企画室が対応します。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野の全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し，定期的に開催（2025 年度実績 3 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者 メッセージ	菊池　貴彦 【内科専攻医へのメッセージ】 岩手県立中央病院は県都・盛岡市にある 685 床の病院であります。令和 6 年度の内科 9 科の実績では，新入院患者数は年間 8,015 人，平均在院日数は 12.0 日であり，外来初診患者数は 9,443 人であります。急性期型病院として救急車搬入件数は年間約 7,200 件を受け入れています。当院ではコモンディジーズ，救急症例，専門医による治療が必要な症例のいずれの症例を主担当医として経験できます。知識習得のための各種カンファランスおよび講習会が実施されていますが，毎週実施されているデスカンファランスの歴史は，死亡症例から真摯に学ぶという先人の情熱が引き継がれています。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 25 名，日本内科学会総合内科専門医 20 名 日本循環器学会循環器専門医 7 名，日本腎臓病学会専門医 2 名， 日本糖尿病学会専門医 4 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名， 日本神経学会神経内科専門医 3 名， 日本消化器病学会消化器専門医 7 名， 日本血液学会血液専門医 2 名，日本リウマチ学会専門医 1 名， 日本臨床腫瘍学会専門医 1 名，ほか
外来・入院患者数	内科 9 科での月間平均人数：外来初診患者 787 名，外来延患者 8,437 名，新入院患者 668 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本血液学会認定血液研修施設 日本血液学会 JSH 専門研修認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本高血圧学会認定研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度規則指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本ペインクリニック学会認定医指定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設

	日本内科学会認定医制度教育病院 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本脈管学会認定研修関連施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度規則認定施設 日本脳神経血管内治療学会認定研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器学会関連施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本病院総合診療医学会認定施設

10. 国立循環器病研究センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント相談窓口が人事課に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	指導医は 72 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置し，施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 8 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2024 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病病，病診連携カンファレンス 2023 年度実績 2 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準【整備基準 24/31】3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 5 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ·専門研修に必要な剖検を行っています。（2024 年度 10 体）
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2022 年度実績 2 演題）をしています。また，内科系学会への学会発表にも積極的に取り組んでいます（2024 年度 329 演題）
指導責任者	野口 暉夫 【内科専攻医へのメッセージ】 国立循環器病研究センターは，豊能医療圏の中心的な急性期病院であり，基幹施設と連携して内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指しています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 72 名 日本内科学会総合内科専門医 50 名

	日本循環器学会循環器専門医 54 名 日本糖尿病学会専門医 7 名 日本内分泌学会専門医 2 名 日本腎臓病学会専門医 6 名 日本神経学会神経内科専門医 22 名 日本老年医学会専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名 日本感染症学会専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 171,001 名（2024 年実績） 入院患者 13,635 名（2024 年実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 5 領域，24 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本超音波医学会研修施設 日本透析医学会研修施設 日本脳卒中学会研修施設 日本高血圧学会研修施設 など

11. みやざ県南中核病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康センター）があります。 ・ハラスメント相談窓口が総務課に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	指導医は 17 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置し，施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021 年度実績 12 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2021 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。

	・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 5 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･専門研修に必要な剖検を行っています。（2020 年度 5 体，2021 年度 7 体）
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究が可能な環境が整っています。 ・倫理委員会が設置されています。 ･治験審査委員会を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2021 年度実績 6 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2019 年度実績 4 演題）をしています。また，内科系学会への学会発表にも積極的に取り組んでいます（2019 年度 48 演題）
指導責任者	佐藤 晃彦 【内科専攻医へのメッセージ】 みやぎ県南中核病院は，宮城県仙南医療圏の中心的な急性期病院であり，基幹施設と連携して内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 14 名，日本内科学会総合内科専門医 14 名， 日本消化器病学会消化器専門医 7 名，日本循環器学会循環器専門医 5 名， 日本糖尿病学会専門医 2 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名， 日本肝臓学会肝臓専門医 1 名，日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 5 名， 日本神経学会専門医 3 名，日本リウマチ学会専門医 1 名， 日本救急医学会救急科専門医 3 名，　ほか
外来・入院患者数	外来患者 699 名（1 日平均）　新入院患者 250 名（1 日平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 5 領域，24 疾患群の症例を経験することができます
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ 日本心血管インターベンション学会研修関連施設 日本病理学会研修認定施設Ｂなど

12. 宮城県立がんセンター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. 期間職員(任期付常勤職員)として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（事務局職員担当）があります. ・ハラスメント相談窓口が整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室, シャワー室, 当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育室があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が11名在籍しています（下記）. ·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024年度実績 医療倫理2回，医療安全2回，感染対策1回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·内科系診療科合同のカンファレンス（2024年度実績2回）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2024年度実績10回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（2024 年度実績 5 回）を定期的に開催しています.
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科・消化器・呼吸器・血液で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・受託研究審査委員会（治験審査）を設置し，定期的に開催（2024 年度実績 11 回）しています。 ・倫理審査委員会（臨床研究等審査）を設置し，定期的に開催（2024 年度実績 6 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に毎年 1 演題以上の学会発表を予定しています（2024 年度実績 1 演題）。
指導責任者	鈴木　眞一 【内科専攻医へのメッセージ】 宮城県立がんセンターは, 仙台市の南部に隣接する名取市にあります. 内科専門研修は, 病院の特性上, 新生物を中心としたものになりますが, 背景疾患が存在する場合は, それについての内科専門研修も可能です.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 10 名，日本内科学会総合内科専門医 8 名, 日本消化器病学会指導医 1 名, 日本消化器病学会専門医 4 名, 日本肝臓学会専門医 2 名, 日本循環器学会専門医 1 名, 日本呼吸器学会指導医 2 名, 日本呼吸器学会専門医 2 名, 日本血液学会指導医 3 名, 日本血液学会専門医 3 名, 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 3 名
外来・入院患者数	外来患者 349.2 名（1 日平均）　新入院患者 483.8 名（月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域, 70 疾患群のうち, 4 領域, 21 疾患群を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら、幅広く経験することができます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会教育関連施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設

	日本呼吸器学会認定施設 日本超音波医学会専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本緩和医療学会研修施設 日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設 日本臨床栄養代謝学会 NST 稼働施設 日本骨髄バンク非血縁者間骨髄採取認定施設 日本骨髄バンク非血縁者間骨髄移植認定施設 日本造血細胞移植学会非血縁者間造血幹細胞移植認定施設 日本輸血・細胞治療学会 I&A 認証施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本胆道学会指導医制度認定施設 日本膵臓学会指導施設 日本ホスピス緩和ケア協会　緩和ケア認証制度認証施設　など

13. 気仙沼市立病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 6 名在籍しています。 ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催（予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，腎臓，および呼吸器の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･専門研修に必要な剖検（2025 年実績 4 体，2024 年実績 1 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは関連学会の総会，または同地方会にて学会発表をしています。
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】 　気仙沼市立病院は宮城県の北東部に位置する災害拠点病院でもあり、内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い，内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	日本消化器病学会指導医　2 名，日本消化器内視鏡学会指導医　1 名 日本消化管学会胃腸科指導医　1 名，循環器専門医　3 名，消化器病専門医　7 名，消化器内視鏡専門医　6 名，総合内科専門医　4 名　ほか
外来・入院患者数	外来患者 16,857 名（1 ヶ月平均）　入院患者 8,475 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，63 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定内科専門医教育関連施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本がん治療認定研修施設 など

14. 栗原市立栗原中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1）専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･栗原市立栗原中央病院の会計年度任用職員または正職員として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ･ハラスメント対策委員会を整備しています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	･指導医が 5 名在籍しています。 ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療安全 12 回，感染対策 4 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスへ定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3）診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，糖尿病，呼吸器分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･専門研修に必要な剖検（2024 年度実績なし、2025 年度実績 1 件）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4）学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し，定期的に開催（年 6 回予定）しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 10 演題以上（2025 年度実績 5 演題）の学会発表をしています。
指導責任者	平潟　洋一 【内科専攻医へのメッセージ】 当科は、派手さは低いですが、科内の風通しはよく、すぐになじめる環境です。大内科制を延いていますので、色々な疾患に出会えるのも魅力です。是非、お待ちしております。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 5 名，日本内科学会総合内科専門医 8 名， 日本肝臓学会専門医 1 名，　日本消化器病学会指導医 2 名，

	日本消化器病学会専門医５名，日本糖尿病学会指導医１名， 日本糖尿病学会専門医２名，日本循環器学会専門医３名， 日本感染症学会指導医１名，日本感染症学会専門医２名， 日本超音波医学会指導医１名，日本超音波医学会専門医１名 日本呼吸器学会指導医１名，日本呼吸器学会専門医２名
外来・入院患者数	外来患者 7,979 名（1ヶ月平均）　入院患者 4,942 名（1ヶ月平均） ※どちらも延べ人数
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群のうち，在宅診療を除いて大方経験できます。 研修手帳の多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について，幅広く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	高齢化の先進地域であり，市内外の医療機関と病病連携・病診連携を図りながら地域の拠点病院として機能を発揮しています。 緩和ケア治療，終末期の診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本消化器病学会専門医制度関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本肝臓学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本超音波医学会超音波専門医研修施設 日本消化器内視鏡学会指導連携施設 など

15. 登米市立登米市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1）専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･各自の机のほか、インターネット環境や図書室があります。 ･研修に必要な医学雑誌や専門誌を定期購読し、医学中央雑誌などのオンラインサービスを定期契約しています。 ･登米市常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ･登米市医療局職員のハラスメントの防止等に関する要綱に基づき、適切な相談体制が整っています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･病院近傍に保育施設があります。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	･指導医が２名在籍しています。 ･内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設である仙台市立病院で行う CPC、もしくは日本内科学会が企画する CPC の

	受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・地域参加型のカンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域全 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	登米市立登米市民病院は宮城県北地域にあり、一般病床 115 床、地域包括医療病床 53 床、回復期リハビリテーション病棟 30 床を有し、地域の中核的な病院として急性期医療を担っております。 登米市の中核病院、災害拠点病院として登米市の皆様のご希望に添えるように、病病連携、病診連携を緊密にするとともに、在宅看護施設や介護施設とも密接に連携できるように努力しております。地方都市の悩みでもあります医師不足、看護師不足は当院にもありますが、職員一丸となって、救急患者さんを含めできるだけ多くの患者さんを受け入れるよう努力しております。 仙台市立病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行ってまいります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 2 名、日本消化器病学会消化器病専門医 1 名，日本内科学会指導医 2 名、日本消化管学会胃腸科専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 1 名、糖尿病学会専門医 1 名　（実人数 2 名）
外来・入院患者数	外来患者 7,533 名（1 ヶ月平均）　入院患者 4,869 名（1 ヶ月平均） ※どちらも延べ人数
経験できる疾患群	稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 高齢者は複数の疾患を併せ持つため、疾患のみを診るのではなく全身を総合的に診る医療の実践が可能になります。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携、地域包括ケアなども経験できます。
学会認定施設（内科系）	なし

16. 石巻赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･安全衛生委員会およびその下部組織にメンタルヘルス対策室があります ･ハラスメント相談員が配置されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地外に院内保育所があり、利用可能です。病児・病後児保育も行っています。

認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医は19名在籍しています。（2026年4月現在） ·内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者兼プログラム管理者：副院長　富永　現）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修プログラム委員会と教育研修推進室が設置されています。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2025年度実績　医療倫理2回、医療安全12回、感染対策12回　計26回） ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（予定）し、専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·ＣＰＣを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2025年度実績7回） ·地域参加型のカンファレンス（石巻COPDネットワーク講演会、石巻喘息ネットワーク講演会、救急隊と病院スタッフによる合同勉強会、キャンサーボードを定期的に開催し、専攻医に受講の時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講の時間的余裕を与えます。（2025年度1回開催） ·日本専門医機構による施設実地調査に教育研修課が対応します。
認定基準 【整備基準24】 3) 診療経験の環境	·カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ·70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ·専門研修に必要な剖検を行っています。（2025年度実績8体）
認定基準 【整備基準24】 4) 学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ·倫理委員会を設置し定期的に開催しています。（2025年度4回） ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	内科専門研修プログラム責任者：富永　現 【内科専攻医へのメッセージ】 石巻赤十字病院は、宮城県石巻・登米・気仙沼医療圏において中心的な急性期医療と専門的医療を担う地域医療支援病院です。内科領域でも医療圏で高度急性期医療や専門的医療を要する患者が集中し専攻医は上級医の指導のもと豊富で多彩な症例を経験できます。さらに期間中に専門性の高い他の赤十字グループ病院への院外研修も選択でき、大変魅力的な研修プログラムを用意しています。東日本大震災では被災地区の第一線で活動した災害医療に対する経験豊富な施設であり、災害に関する院内研修会にも力を入れており、緊急災害医療への対応力を磨くことが可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医18名 日本内科学会総合内科専門医17名 日本消化器病学会消化器病専門医5名 日本内分泌学会専門医1名 日本糖尿病学会専門医1名 日本循環器学会循環器専門医5名 日本腎臓学会専門医2名 日本呼吸器学会呼吸器専門医5名 日本血液学会血液専門医2名 日本神経学会神経内科専門医1名

	日本感染症内科専門医１名 日本救急医学会救急科専門医３名　ほか
外来・入院患者数	外来患者 1,184 名（1 日平均患者数）、入院患者 449.6 名（1 日平均患者数） 2025 年度
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本腎臓病学会認定教育施設 日本血液学会専門研修認定施設 日本透析医学会教育関連施設（岩手県立中央病院） 日本神経学会准教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本老年医学会認定施設 日本東洋医学会研修施設（教育関連施設） 日本感染症学会研修施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度認定施設 日本超音波医学会研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設指定 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本循環器学会研修施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会研修施設（連携施設）

17. 岩手県立中部病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院であります。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境（Wi-Fi）があります。 ・岩手県立病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（事務局次長）があります。 ・事務局長、事務局次長、総看護師長及び病院長が指名する者の６名がハラスメント相談員として相談を受ける体制となっています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、２４時間保育を行っております。

認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・日本内科学会指導医は７名、総合内科専門医は５名在籍しています。 ・内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されているプログラム管理委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会の年間開催計画を作成し専攻医に受講を義務付け、そのための時間を確保します。 ・研修施設群合同カンファレンスへの専攻医の受講を義務付け、そのための時間を確保します。 ・ＣＰＣを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間を確保します。必要な場合は、基幹施設で行うＣＰＣ又は日本内科学会が企画するＣＰＣを受講するための時間を確保します。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講義務付け、そのための時間を確保します。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野の全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、文献検索システムを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、新しい医療の研究や統計作成に取り組む環境を整備しています。 ・日本内科学会での多数の学会発表を実施しています。
指導責任者	石曾根　武徳 【内科専攻医へのメッセージ】 岩手県立中部病院は岩手県のほぼ中央、中部医療圏の地域中核病院です。県立花巻厚生病院と県立北上病院が合併して 2009 年 4 月に開院した 18 年目の病院です。救急医療とがん医療を主機能とし、救急患者数は 1 日 28.5 人、救急車搬入件数は 12.5 件です。また、岩手県立病院では初めて PET-CT を導入し、最新医療機器を整備し、がん手術件数、化学療法件数も多く、緩和ケア病棟もあり包括的ながん医療を実践しています。 当院は開院以来初期臨床研修医の教育にも熱心に取り組んできました。2026 年度初期臨床研修医数は 12 名で、その半数程が後期研修として当院に残るものと期待しています。今回の新専門医制度内科専門医領域では、17 の病院と連携しながら内科専門医を教育すべくプログラムを作成しました。今後、当院から日本の医療界を牽引する若い医師が育つことを強く期待しています。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医７名 日本内科学会総合内科専門医５名 日本消化器病学会消化器専門医４名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医５名 日本循環器学会循環器専門医１名 日本肝臓学会肝臓専門医１名 日本糖尿病学会専門医１名
外来・入院患者数	内科８科での月間平均患者数 新外来患者 349 名、外来延患者 5,080 名 新入院患者 395 名、入院延患者 4,671 名
経験できる疾患群	・きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能	・技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	・救急、急性期医療だけでなく、高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病、病歯、病薬連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会教育関連施設 日本消化器病学会専門医制度関連施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導連携施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本神経学会准教育施設 日本肝臓学会認定施設　など

18. 総合病院聖隷浜松病院

認定基準 【整備基準 24】 1）専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·聖隷浜松病院医師として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（聖隷福祉事業団本部に委員会）があります。 ·ハラスメントに関する相談・苦情受付体制は聖隷福祉事業団本部に事務局、施設に担当窓口が整備されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·隣接敷地外に院内保育園があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	·指導医 49 名在籍しています（下記）。 ·内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を e-ラーニングにて開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンスを開催し、専攻医に受講ための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3）診療経験の環境	·カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ·専門研修に必要な剖検（2023 年 12 体、2024 年 13 体、2025 年 10 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4）学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室やインターネット環境(電子ジャーナル)などを整備しています。 ·学術広報室・フォトセンターを整備しており，学会ポスター作成の支援が受けられます。 ·倫理委員会を設置し。定期的に開催（2025 年度実績 7 回）しています。 ·臨床研究管理センターを設置し、定期的に臨床研究審査委員会を開催しています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会（2025 年度実績 2 演題）ならびにサブス

	ペシャリティ学会での学会発表を含めると年間計 10 演題以上行っています。
指導責任者	杉浦 亮（プログラム責任者） 【内科専攻医へのメッセージ】 聖隷浜松病院は、急性期病院として高度な先進医療を提供するとともに、多種の専門センター機能を有する総合的病院です。当院には総合診療内科をはじめ、各専門内科の指導医が多数在籍しており、豊富で多彩な症例を経験することが可能です。当院での内科専門医研修を通じて、質の高い医療を提供できる内科医の育成だけでなく、人間性あふれるひとりの人間を育みたいと思っています。また我々はこの専門医教育の中で、基幹施設である聖隷三方原病院をはじめ、他の地域病院や開業医との連携を通じ、地域医療にも貢献していきたいと考えています。日本の未来の医療をしっかりと支えてくれる医師の育成を目指します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 49 名、日本内科学会総合内科専門医 30 名 日本消化器病学会消化器病専門医 12 名、日本消化器病学会指導医 5 名 日本循環器学会循環器専門医 9 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名、日本呼吸器学会指導医 3 名 日本血液学会血液専門医 3 名、日本血液学会指導医 2 名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名、日本内分泌学会指導医 1 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名 日本腎臓病学会腎臓専門医 2 名、日本腎臓病学会指導医 2 名 日本肝臓学会肝臓専門医 4 名、日本肝臓学会指導医 2 名 日本アレルギー学会アレルギー専門医（内科）1 名 日本神経学会神経内科専門医 6 名、日本神経学会指導医 3 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 2 名、日本リウマチ学会指導医 1 名 その他：（日本救急医学会救急科専門医、日本リハビリテーション医学会リハビリテーション科専門医など幅広く在籍しています。）
外来・入院患者数	外来患者　1,644 名（1 日平均）　入院患者　664 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本心血管インターベンション学会認定研修施設 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設 日本高血圧学会専門医認定施設 不整脈専門医研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本てんかん学会認定研修施設

	日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本栄養療法推進協議会認定 NST（栄養サポートチーム）稼動施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本リハビリテーション医学会研修施設 日本臨床薬医学会認定研修施設 日本静脈経腸栄養学会 NST（栄養サポートチーム）稼動施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設　など

3) 専門研修特別連携施設

1. 塩竈市立病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期医療研修における地域医療研修施設です。 ・研修に必要なインターネット環境があります。 ・塩竈市立病院医師として労働環境が保証されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署が基幹施設にあります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・基幹施設で開催する医療倫理・医療安全・感染対策講習会の受講を専攻医に義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設で開催する研修施設群合同カンファレンスの受講を専攻医に義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設である仙台市立病院で行う CPC もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設で開催する地域参加型のカンファレンスの受講を専攻医に義務付け，そのために時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	基幹施設において，日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	真野　浩 【内科専攻医へのメッセージ】 塩竈市立病院では，「信頼・貢献・誠意」をモットーに，塩竈市・多賀城市・松島町・七ヶ浜町・利府町の仙塩地区の医療を支えております。仙塩地区唯一の公立病院として良質で安全な医療を提供し，地域住民の生命と健康を守り，地域医療機関と連携を強化して，地域医療の充実に努めています。急性期医療だけでなく，高齢者医療，在宅医療，健康診断，予防医学にも力を入れています。 病棟では医師を含め多職種協働のチーム医療をおこない，各医師・各職種および家族を含めたカンファレンスを実施し治療の方向性，在宅療養の準備を進め，外来・在宅担当スタッフ等へと繋いでいます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会認定内科医 1 名，日本消化器病学会専門医 2 名　等
外来・入院患者数	外来患者 4,482 人（1 ヶ月平均），入院患者 3,716 人（1 ヶ月平均） 〃　　222 人（1 日平均），　　〃　　122 人（1 日平均）
病床	一般病棟　161 床
経験できる疾患群	・ 研修手帳にある 13 領域のうち，総合内科及び消化器内科分野の症例を幅広く経験できます。 ・ 高齢者は複数の疾患を併せ持つため，疾患のみを診るのではなく全身を総合的に診る医療の実践が可能になります．院内他診療科との連携により，より総合的な診療を行うことができます。

経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を，療養病床であり，かつ地域の病院という枠組みの中で経験できます。具体的には下記のとおりです。 ・健診，健診後の精査，地域の内科外来としての日常診療，必要時入院診療へ繋ぐ流れ ・急性期をすぎた療養患者の機能の評価（認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価） ・複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について．患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方・かかりつけ医としての診療の在り方 ・褥瘡についてのチームアプローチ
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本消化器病学会認定施設

2. 公立黒川病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期医療研修における地域医療研修施設です。 ・研修に必要なインターネット環境（Wi-Fi）と電子ライブラリ環境があります。 ・公立黒川病院非常勤医師として労働環境が保証されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（管理者（心療内科専門医）、事務担当職員および産業医）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・シャワー室・当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置し施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 4 回）し、専攻医を含む職員全員に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設である大崎市民病院で行う CPC もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスは基幹病院および大崎市医師会が定期的に開催しており、専攻医に受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、呼吸器、神経および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については、高度ではなく一次・二次の内科救急疾患、より一般的な疾患が中心となります。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。

指導責任者	角田　浩 【内科専攻医へのメッセージ】 公立黒川病院は宮城県仙台医療圏の北部の黒川郡大和町にあり、昭和 22 年の創立以来地域医療に携わる総合病院です。理念は「地域と共に、地域と生きる、地域を守る」で、急性期医療から在宅医療までを包括的にカバーする地域の中心的な病院です。 外来では地域の病院として、内科では内科一般および専門外来、外科、整形外科、小児科、泌尿器科、婦人科、耳鼻科、眼科、皮膚科の充実に努め、健診・ドックの充実にも努めています。 入院病床としては、①急性期病床 55 床、②地域包括病床 55 床、③回復期リハビリを有し、いずれも高い在宅復帰率を達成しています。退院前のリハビリは④通所リハビリ、⑤訪問リハビリへつながり、医療は⑥訪問診療および訪問看護へつながり、急性期から在宅医療までの包括的医療提供体制を維持しています。 在宅医療は、在宅療養支援病院として医師 5 名による訪問診療と往診を行っています。（月 50～60 件）病棟・外来・併設訪問看護ステーション・併設居宅介護支援事業所との連携のもとに実施しています。 病棟では医師を含め多職種協働のチーム医療をおこない、各医師・各職種および家族を含めたカンファレンスを実施し治療の方向性、在宅療養の準備を進め、外来・在宅担当医師・スタッフへと繋いでいます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 1 名、日本内科学会認定内科医 2 名、日本消化器病学会専門医 2 名、日本消化器内視鏡学会専門医 2 名、日本肝臓病学会肝臓専門医 1 名、日本プライマリケア連合学会認定医・指導医 3 名、日本病院総合診療医学会認定・指導医 2 名、日本専門医機構総合診療専門研修特任指導医 2 名　等
外来・入院患者数	外来患者 4,431 名（1 ヶ月平均) 入院患者 127.2 名（1 日平均)
病床	一般病棟 110 床〈うち地域包括ケア病床 55 床〉、回復期リハビリ病棟 60 床
経験できる疾患群	・ 研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験できます. ・ 高齢者は複数の疾患を併せ持つため疾患のみを診るのではなく、全身を総合的に診る医療の実践が可能になります。院内他診療科との連携により、より総合的な診療を行うことができます。
経験できる技術・技能	・内科専門医に必要な技術・技能を療養病床であり、かつ地域の病院という枠組みの中で経験して頂きます。 ・健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療・必要時入院診療へ繋ぐ流れ。 ・急性期をすぎた療養患者の機能の評価（認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価) ・複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について、患者本人のみならず家族とのコミュ　ニケーションの在り方・かかりつけ医としての診療の在り方。 ・嚥下機能評価（単科造影にもとづく）および口腔機能評価による機能に基づいた食事の提供と誤嚥防止への取り組み。 ・褥瘡についてのチームアプローチ。

経験できる地域医療・診療連携	・入院診療については急性期患者、急性期から回復期への患者、そして回復期の患者の診療・残存機能の評価を行い、多職種および家族と共に今後の療養方針・療養の場の決定と、その実施に向けた調整と在宅復帰にむけたリハビリ指導を行います. ・ 在宅へ復帰する患者については地域連携室、ソーシャルワーカーとともに在宅復帰後の外来診療あるいは訪問診療、それを相互補完する訪問看護・訪問リハビリとの連携のもとにケアを行います。 ・地域においては連携している認知症グループホームにおける訪問診療と、急病時の診療連携、郡内の診療所・老人保健施設・特別養護老人ホームなどからの入院受入と患者診療、地域のケアマネージャー、介護事業所、行政等との多職種による医療・介護連携を行います。 ・ 北部工業団地等の多くの企業の地域の健康管理に貢献しています。
学会認定施設（内科系）	・日本病院総合診療医学会認定施設

その他，下記の特別連携施設では，主に内分泌領域の症例経験を補完します。

3. 渋川内科医院

指導担当者	澁川　諭 （日本内科学会認定総合内科専門医，日本内分泌学会内分泌代謝専門医）
外来・入院患者数	外来患者　約1,250名（1ヶ月平均）
診療科	内科，糖尿病内科，循環器内科，呼吸器内科，アレルギー科
経験できる技術・技能	外来診療を通じ，主に内分泌領域に症例を経験する。

仙台市立病院内科専門研修プログラム管理委員会

（2026 年 5 月現在）

仙台市立病院

菊地　達也	（プログラム統括責任者，委員長，消化器分野担当責任者）
小荒井　晃	（呼吸器分野責任者）
三引　義明	（循環器分野責任者）
山本　多恵	（腎臓分野責任者）
遠藤　　薫	（神経分野責任者）
山本　譲司	（血液分野責任者）
井泉　知仁	（代謝分野責任者）
八田　益充	（感染症分野責任者）

連携施設・特別連携施設担当委員

東北大学病院	青木　正志
仙台オープン病院	伊藤　啓
仙台西多賀病院	長谷川　隆文
仙台医療センター	菊地　正
JCHO 仙台病院	土屋　善慎
東北労災病院	榊原　智博
大崎市民病院	岩渕 薫
東北医科薬科大学病院	小暮　高之
岩手県立中央病院	菊池　貴彦
国立循環器病研究センター	野口　暉夫
みやぎ県南中核病院	佐藤　晃彦
宮城県立がんセンター	鈴木　眞一
気仙沼市立病院	星　達也
栗原市立栗原中央病院	平潟　洋一
登米市立登米市民病院	三上　哲彦
石巻赤十字病院	富永　現
岩手県立中部病院	石曾根　武徳
聖隷浜松病院	内山　剛
塩竈市立病院	真野　浩
公立黒川病院	角田　浩
渋川内科医院	澁川　諭

オブザーバー

八木　哲夫（医療管理監）

内科専攻医

別表１　　仙台市立病院疾患群症例病歴要約到達目標

○内科専門研修修了要件（「症例数」「疾患群」「病歴要約」）一覧表

	内容	症例数	疾患群	病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	計10以上	1	2
	総合内科Ⅱ（高齢者）		1	
	総合内科Ⅲ（腫瘍）		1	
	消化器	10以上	5以上	3
	循環器	10以上	5以上	3
	内分泌	3以上	2以上	3
	代謝	10以上	3以上	
	腎臓	10以上	4以上	2
	呼吸器	10以上	4以上	3
	血液	3以上	2以上	2
	神経	10以上	5以上	2
	アレルギー	3以上	1以上	1
	膠原病	3以上	1以上	1
	感染症	8以上	2以上	2
	救急	10以上	4	2
外科紹介症例		2以上		2
剖検症例		1以上		1
合計		120以上 (外来は最大12)	56 疾患群 (任意選択含む)	29 (外来は最大7)

※1　目標設定と修了要件：年次毎の目標設定は以下のとおり。

	症例	疾患群	病歴要約
目標（研修終了時）	200	70	29
修了要件	120	56	29
専攻医2年修了時 目安	80	45	20
専攻医1年修了時 目安	40	20	10

※2　疾患群：修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが，他に異なる 15 疾患群の経験を加えて，合計 56 疾患群以上の経験とする。

※3　病歴要約：全て異なる疾患群での提出が必要。

※4　各領域について

①総合内科：病院要約は異なる分野から 1 例ずつ計 2 例提出する。

②消化器：疾患群の経験と病歴要約の提出それぞれにおいて「消化管」，「肝臓」，「胆・膵」が含まれること。

③内分泌と代謝：それぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する。

※5 初期臨床研修時の症例は，以下の条件を満たすものに限りその登録が認められる。

1）日本内科学会指導医が直接指導をした症例であること

2）主たる担当医師としての症例であること

3）直接指導を行った日本内科学会指導医が内科領域専門医としての経験症例とすることの承認が得られること

4）内科領域の専攻研修プログラムの統括責任者の承認が得られること

5）内科領域の専攻研修で必要とされる修了要件 120 症例のうち 1/2 に相当する 60 症例を上限とすること。併せて，病歴要約への適用も 1/2 に相当する 14 症例を上限とすること


仙台市立病院
SENDAI CITY HOSPITAL